THE Y.W.C.A. MONTHLY

明治三十七年五月七日第三種郵便物認可
大正十一年二月一日發行（毎月一回一日發行）

女子青年界

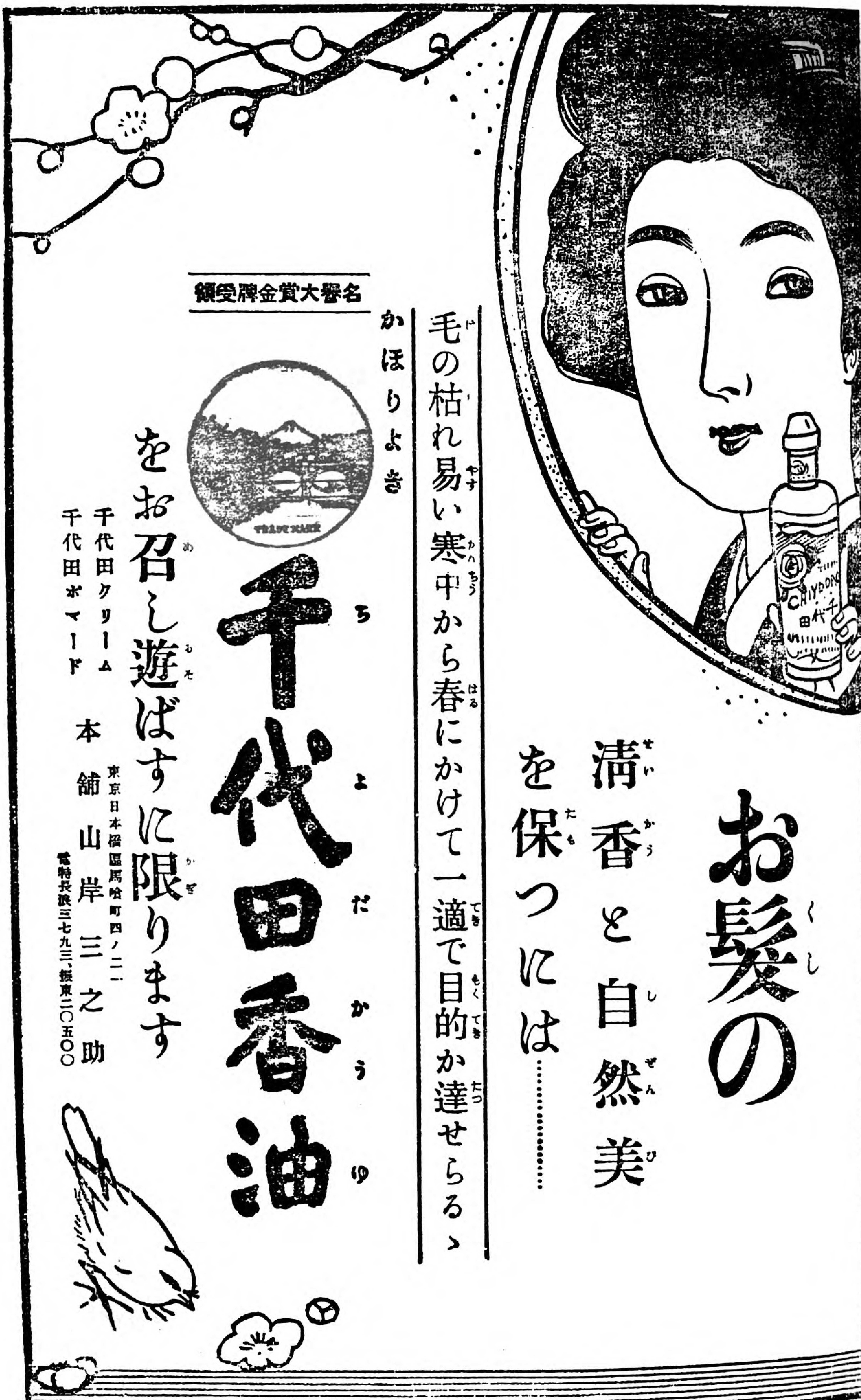
二月號




仁丹

女子青年界目次

第十九卷第二號
大正十一年二月號


お髪の
清香と自然美
を保つには……
毛の枯れ易い寒中から春にかけて一滴で目的が達せらるゝ
名誉大賞金牌受領
かほりよき
千代田香油
をお召し遊ばすに限ります
千代田クリーム
千代田ポマード
本舗 山岸三之助
東京日本橋區馬喰町四ノ二一
電特長浪三七九三、振東二〇五〇〇

「診察毎朝及毎夕 但祭日及日曜之他」
院長診察 月、木、金、午前及午後六時
林、峯間兩副長は目下當院に在勤
東京市麹町區三番町三十番地（市ヶ谷見附内）
電話番町 六二番 五一六番

東洋内科醫院

院長 醫學博士 高田畊安

電話ちがさき二番

南湖院

神奈川縣茅ヶ崎海濱〔從停車場半里〕
河野、高橋、兩副長は目下當院に在勤
院長診察 土曜日午後 入院診後應需
「診察毎朝 但祭日及日曜及土曜之他」

銀ブラの折は御立寄御覽下さい

舶來化粧品 上級香水
舶來賣藥 純粹藥品
テニス用具 流行新形ヅック靴
御用の方は御電話なり御葉書なり下さい

東都唯一の外人經營藥店
尾張町一ノ一

ブレットホスピタルファアマシー

電話銀座〔一五三五〕

WHEN ALONG THE GINZA.
Visit Brett's Hospital Pharmacey
The only foreign Druggist in Tokyo.

TOILET REQUISITES
PERFUMES
PATENT MEDICINES
PURE DRUGS
TENNIS GOODS
WHITE CANVAS
BOOTS & SHOES

For what you want call or write to-
Brett's Hospital Pharmacey
Owarichi Ginza, Tokyo.

倉田百三序曲
中村亮平新著

聖者の生活 荒野の花

四六判天金絹表紙
四百頁挿畫廿二枚入
定價參圓八拾錢
郵送料十七錢

倉田百三氏は本書の卷頭に序に代へて戯曲「或る教師の夢」を寄せられた。

此世に生を享くる者は何人も或る見えざる力の圏内に生きてゐる。而して其力に面接せる人程より幸福である。それは教儀の宗教にあらずして心の宗教である、聖者達の生涯から直接に吾等の心底にせまつて來るものは何であるか、其は凡て人類の飢え渇くが如く水を求めつゝある生命の糧である。著者は何ものにも束縛せられず純眞に、上り純眞に、基督、佛陀、聖フランシス、親鸞、孔子の聖者達に面接して大なる靈感に滿たされて彼等の生涯を執筆した。暗黑より光明へ、惡より善へ、邪より正へ、悲哀より歡喜へ、凡て人生の諸問題に惱める人々には永遠の生命と消えざる光明を與へられるで有らう。

▼藝術家の生活 **柊の花** ▼價三、〇〇、税一二

藤浪水處、馬場睦夫共譯

ウォルタァ スコット 湖上の美人

(新版)

▼四六判布製函入五百頁餘挿畫十二枚
▼定價金參圓五拾錢 郵税十四錢

幽邃神秘なる蘇格蘭高地キャトリン湖上に、白百合の如く麗しくも淸く咲き出でたる世を忍ぶ絕世の佳人に、蘇國王、追放の貴族、高地の酋長、豪族等を配し、戀愛と野心と武俠との痛烈なる葛藤悲劇は、綿々として盡きざる一大叙事詩となつて、奇しくも、美しく讀者の眼前に展開す、本篇は實に、沙翁、ミルトンに次ぐ近代英文學史上の一大偉人スコットの千古の傑作であつて、當時眞に洛陽の紙價を貴からしめしもの、その流麗にして典雅なる筆觸と、變幻極りなき事件の發展とは、恐らく一讀卷を措く能はざるものがあるであらう。譯者は流暢なる現代口語文を以てその全部を忠實に譯出し、以て一般文學愛好者に贈る。

馬場睦夫譯 ■詩 ボートレル集 惡の華 ▼定價二、五〇

帆足理一郎著 ■人生詩人 ブラウニング ▼定價二、五〇

中山昌樹譯 ■ダンテ神曲(全) ▼定價八、五〇

發兌元 東京市麴町區隼町廿番地 振替口座東京二〇一九一四 **洛陽堂** (目錄葉書往復進呈)

萬國學生祈禱日

來る二月二十九日は萬國學生祈禱日に當ります第五頁にある趣意書をお見落しないやうに御覽下さいまして此日を御記憶下さい


紳士の髭剃に
カテイ石鹸
安全剃刀
クラブ洗粉
クラブゼリー
クラブタルカン
眉目清秀
THE IMPERIAL
製法は科學的
效力は徹底的
信用は世界的
クラブ煉歯磨
便利なる押出し
チューブ入發賣…
非常なる歡迎！

女子青年界 第十九巻 第二號 大正十一年二月一日發行

雪の朝感想

安井哲子

寒氣身にしむ雪の朝、温かく心地の好い寝床の中に目を覺まして、枕元の時計を見るに五時少し過ぎである。女中の起き出づる時であるが、さぞ眠からう、寒からう、此温かい床の中からは氣の毒で起こされぬと思ひながらとう〳〵呼び覺ました。間もなく柱時計が六時を打つ。起きねばならぬ甥はまだ心地よく眠つて居る。學校に遲刻させてはならぬと呼び起こした。答のみして復眠りに入る。もう一度呼び覺まさんとして躊躇した。自分は温かい床を去りかねて、若い人々のみを起こすは如何にも心苦しい。――假令彼等は起きねばならぬ理由があつても。も少し此のまゝで居りたいといふ慾望と、若き人々の奬勵のために起きねばならぬといふ思ひとが瞬間爭つた。終に思ひ切つて心地好い寝床を見棄てゝ、寒さ身にしむ戶外に雪をかいた。かき行くうちに汗がにじみ出る程全身が快く暖まつて來た。そして寒さと勇ましく戰ふ愉快と、戰ひ得る體力と、道行く人々のために雪かく勞働の樂しさとを痛切に感じて心は喜びに充ちた。

吾々は時々自分の慾望を充たしたいといふ心と、それを棄てゝ自他の爲めに其れより良き事をなさねばならぬと思ふ心との衝突を經驗することがある。爲したいことをした時は――勿論滿足するが、それは其の瞬

間で、屢々永久の悔が其後に繼く。爲すべき事は、多くの場合それほど愉快ではないが、それは其の瞬間で其後には永久の滿足が繼ぐ。此種の經驗を度々繰返へすと終には爲すべき事を喜んでするやうになる。

「人が見る事の出來ぬ世界の信仰を以て歩むか、若くは此世界を直觀して歩くかどちらかに依つて人生は頗る異なつた相を呈するものである。人は同一の外的事情の下で絶望することもあれば、幸福に感ずることもある」とは。ヒルテイの言葉である。

假令信仰を有つ吾々でも、弱い人間は常に信仰を以てのみ歩むことが出來ない。時には聖書の言葉を通じて、又時には眞に信仰に生きて居る方々を通じて、感激的な美くしい生活を自ら試みる場合はあるが。時には全く浮世の生活に沒頭して盡きぬ慾望を追ひつゝ、不滿と不平の生活をすることもある。併し此二種の生活を心靜かに思ひ比べることに依つて、信仰的生活の美くしさが明らかに意識せらるゝやうになり、次第にその生活に入ることが出來るやうになるのである。

敎養ある人々は殆ど誰でも人生を眞面目に解釋し、又しやうとして居るやうに思はれる。そして哲學や文學や藝術や或は又宗敎に依つて、己れを敎養しやうと努めつゝある。殊に現代の青年に於てはそうであると思はれる。併し是等に依つて、人生の疑惑が解かれ、全く心の安靜を得ることは容易ではない。それで彼等は途方に暮れ、彼地此地を漂泊して、時とすると今まで有つて居た信仰さへも棄つることがある。併し吾々は人生に對する眞面目な態度と、正しい意志さへあれば、神の保護の下に精神的安全な生活が與へられると信ずる、そして人間の生活が、唯此世のものゝみを目指して居るのでは、如何に淺薄であり、又不幸であるかを意識するやうになる、之れと同時に一度眼を精神界に轉ずる時に、此汚なく見ゆる人間世界の中に、淸き空氣や、明るい日光を認めることが出來る。貧民救濟事業に親しく從事して居る人々の話に依ると、缺乏の

生活に荒んで居る彼等は、人の與ふる物質に對して、恰も餓えた犬が肉片を奪ひ合ふやうな、淺ましい本能的の生活を露骨に現はすが、他の一面には彼等は互に深く同情し、且つ其子に對して美しい母の愛を示して、天國を偲ばしむる貴いものを見出すことが出來るとのことである。

然るに貧民窟を訪問する一般人は、彼等の外的生活のみを見る時に其の不潔と不秩序とに不快を感じ、目に見える種々の罪惡よりおして、彼等を絶望的な人間として輕侮することが數々ある。併し「死線を超えて」の著者のやうに十餘年間も彼等の友として彼等の間に生活して居られる方は、醜い生活の中に美しいものを見出し價値のないやうに見ゆる生活の中に貴いものを認めることが出來るやうである。著者の實際生活を親しく觀察した人々の話に依るに、彼れが貧民窟の狹い路を通ほると、垢と塵とに汚れた子供が彼處からも此處からも限りなく集まつて來て、手といはず衣服といはず纒はるのである。そして是等の汚ない子供等は彼に抱かれ或は接吻されて、父とし先生として慕ふとのことである。是等の子供は恐らく彼の目には天使のごとく愛らしく美くしいものと見ゆるであらう。茲に超感覺的の世界がある。

吾等は理想に於ては神の前に人類皆同胞であると信ずる。故に吾等は如何なる人でも、これを愛し之れを敬すべきであると思つて居る。併し吾等の實際生活は之れを裏切る場合が多い。獨り貧民ばかりではない、吾等の周圍の人々に對しても。かくありたいと憧憬する自分と、現在ある自分とは其の距離が甚遠い。此意識が吾等に與ふる絶えざる苦痛である。

吾に對ひて主よ主よといふ者、ことごとく天國に入らず、ただ天にいます我が父の御意をおこなふ者のみ之に入るべし」とは、實に吾等の胸を刺す言葉である。吾等が望みつゝも尙得られぬ弱い自己を反省するときに、初めて神の意志を行ひ、神の愛を通じて周圍の人々を愛する聖者を崇拜させる。

此世に於ける最も著しき者、貴き者に眼を注がずして、寧ろ小さな者、弱き者に觸れる事が、吾々の生活を眞面目にし、意義ある者とするばかりでなく、其處に生命を見出し得ると信ずる。彼等の前には常に自己の生活を豐富に感じ感謝の心を有ち得るのみでなく、彼等のために自分を捧げんとする美くしい犧牲の精神が湧き出づることが屢あるのである。

ヒルテーは「自分が人間の輕蔑者にならなかつたのは、貴き人々との接觸からでなく、賤しい人々の生活と氣質とを觀察して得た賜物である」と言つて居るが、其意味がよく理解されると思ふ。

弱き吾々は聖者の生活を慕ひながら、其踏み來つた困難な道を深く考へぬ。假令考へても其道に踏み出しかねる。吾々が彼等の後を慕ふならば、普通人の選ばぬ險しい路を取らねばならぬ。其路に踏み込む勇氣がなければ本當に彼等の弟子とはなれぬ。實行する勇氣と力とを欠く爲めに、吾等はいつでも自分に滿足し得ぬ不徹底の人として殘つて居るのである。眞の幸福と喜悅とは最も不幸の中に經驗されるといふ事は吾々の生活の中にも見出す事が出來る。

自分に取つて最も良き生活は、他人に取つても良き生活である。雪の朝に寒さを忍んで早く起き出づるやうな小さなことでも、之れに依つて周圍の人々に良い影響を與へて居る。即ち自分も人も爲すべき事を爲したといふ愉快な感じを有つことが出來る。他人の爲めに雪かきする小さな勞働が、如何に大きな滿足を自分に與へ、又自分の爲めに雪かきする他人の勞に對して、如何に深い感謝を感せしむるであらうか。

吾々は先づ日常の最も小さな事を、最も良い動機を以て爲したいと思ふ。此處に人生の最も深い意義が見出され。此處に聖者のたどられた道の出發點を見出すのである。吾々は先づ自分の周圍にある最も弱き者、賤しき、者に興味を有ち度いと思ふ。玆に感謝と愛と希望との眞の信仰的生活を見出し得るのである。

萬國學生祈禱日趣意書

萬國基督教學生青年會同盟は其成立以來二十有餘年、毎年日を定めて、世界の各基督教青年會、基督教學生團體、諸教會の指導者及其の會員達が全世界の學生の道德靈性の安全に保たれて居る事を感謝し且つ祈禱してこれを憶えて來たのである。これ實に本同盟が力ある成長發達を成し來れる原因をなし今や二千五百餘の大學、專門學校、高等學校の內に基督教青年會として團結せる學生、教授約二十萬を有するに至つたのである。こゝに本同盟はこの活ける力ある會合によつて、千九百二十二年二月廿六日を萬國學生祈禱日と定め衷心より學生の靈的生活とその奉仕の精神を以てこの祈禱日を共に守らんとする諸兄姉に訴ふる次第である。

感謝の項目

一、專門學校、大學入學者激增の結果基督教學生青年會が益々隆盛となり來たれる機運に對して

二、多數の學生間に宗教的研究の擴がれること及支那近東、南部ヨーロッパ英吉利、亞米利加合衆國等の學生間に福音傳道の著しき效果ありしことに對して。

三、東西學生の間に社會的良心と社會的活動とが著しく顯れたることに對して。

四、東部及中央ヨーロッパ並に西部アジアの同胞學生の救濟事業に對する本同盟の訴に全世界の學生が寬容犧牲の精神を以て應じたることに對して、

五、迫害と甚しき窮乏及苦難の中にあるロシア學生の間に靈的焰の尙盛なることに對して。

六、世界各國の基督教學生の間に靈的協力の念が

增して來たことに對して。

七、過去に於ける青年會事業が今日國民の政治的生活殊にワシントン會議列席の多くの各國全權の間に於ける先輩青年會々員の地位に及ぼした影響に見る如き恒久遠大の感化を與へ得たることに對して。

祈禱の項目

一、現代學生の尊敬と信用を得て居る牧師、教師著述家が彼等の責任を切實に感じ言葉と文學によつて來るべき時代に正義と無私の力を以て指導すべき學生の理想及前途の上に感化を與へ、その身を神に獻げ得ん爲めに。

二、各大學其他に於ける基督教學生團體の事業の結果なる靈的力ある指導者と完き智的機關及指導者の純正の寄與が現今の驚くべき狀態に必要とするものを充たし得ん爲めに。

三、本同盟の現今の事業の一つたる學生救濟事業の爲め充分の資が與へられ困憊の極にある學生の缺乏を補ひ得ん爲めに。

四、ロシア本國にある學生及他國に避難せるものが更によき指導者を得んことの爲めに。

五、現今政治的、社會的、智的の不安不振の狀態にあるインド、中華民國其の他アジアの國々の學生が活ける基督に接し且基督の精神とその動的教義を社會の刷新と改造の諸問題に活用し得ん爲めに。

六、一千九百二十二年四月四日より九日まで北京に於て開かるゝ萬國基督教學生青年會同盟總會には三十餘箇國の代表者が出席するのであるが同大會が逼迫せる國際問題民族問題に對して基督教的解決の促進に大なる力を與へ得んが爲めに。又三月三十日より四月二日に亘る同所に於ける萬國基督教學生青年會同盟委員會が現狀に適せる計畫を爲し得んが爲めに。尙國際的代表者が極東の學生の中心地を訪問するに當つてこの訪問が大なる精神的效果を齎らすことを得

んが爲めに。

今日まで大學及專門學校は無私の指導者の理想の山訓練の地であつた、而して今日の世界は最もこれ等大學の帶ぶる理想と訓練の二大使命を緊要する時代である。神の力があつて、理想が與へられ偉人なる指導者が現はるゝのである。これこそ偉大なる力である、故に眞實と熱誠と一致の精神を以て來るべき萬國學生祈禱日々守る事が如何に重大であるかを思ふのである。

萬國基督教青年會同盟

委員長　ジョン、アール、モット

副委員長　王正廷

副委員長　河井道子

常務委員會主事　ルス、ラウス

祈禱に就て

靈光錄より

「祈禱は人の心靈に存する最も深き固有の情感である」カーライル

「祈禱は人の精神的能力の絶頂なり」コールリッヂ

「日毎に十分づゝ基督と共に過せば、否面を合はせ心を合せて二分づゝだけにても過せば全生活はこゝに新生面を開くであらう。」ヘンリー、ドラモンド

「力盡して天かけらんとする心靈と
祈りせんとの心情とは汝の燃やすものなり
汝の焰の舌はかすかにまた明けく
昔も今も凡ての民等に顯はる

「イエスは弟子達が進んで祈ることを敎へ給へと求めた程力を籠めて祈り給うた。彼は時には其の

顏貌が光榮に輝いた程の歡喜の情に溢れて祈られた。之に由れば、彼が膝まづけるは決して自分に語って居ることではないことが分るであらう。彼は單に自分の言葉の反響を聞いて居られたのではなかつた。確かに彼が祈つた時には、或者に遇ひ給うたのである。彼の生命は他の生命に衝き當つたのである。彼は「心氣恍惚たる歡喜をもて彼をかき亂せる或者の存在を感じ給うた。」彼の祈禱は獨語でなく對話であつた、獨白でなく友情であつた。蓋し祈禱は專ら物乞ひすることでもなければ單に自己省慮でもない。祈禱は心靈の達し得る最高の經驗であつて即ち神との靈交である。

神若し人の思想と働きとに依りて或物を成就せんとし給ふに於ては、人の祈禱に依りて或物を行はんとなし給はざる筈はない。偉大なる心靈は之に對して確實なる證據を示して居る。或物は思想なくしては出來ないのである。即ち祈禱は人が神と協力する三種の形式の一つである。

それ故に神か全知全愛なりと言ふ事實は、思想と働きとを廢止する理由とならざると同じく、決して祈禱を廢止する理由とはならぬ。最高の祈禱は決して神意に反する物を得んとすることではない。寧ろこれは凡ての神意を人生に行はしむるために必要缺くべからざるものである。

○

祈禱は神を手搜りするのではない。祈禱は神に對して生活を開くのである。祈禱心なき者は神から逃げ去る神を見出すことは實は神に我等を見出させることである。何となれば我等が神を搜すと言ふのは單に神の搜索に我等を任せるのに過ぎない。此眞理が徹底すれば祈禱が活きて來る。最早や空處に向つて話すこともなく、彼を暗に索ることもない。我等は密室に入り、其處にて神の我等に送り給うた凡ての高貴なる勢力を同時に發揮させるのである。我等はおのが最善の思想明晰なる靈想、精妙なる良心を通して、神に話させるのである。最早遁れようとす

る心はない。逃げ迷ひ疲れ果てたる流浪の子が父に遇うたやうに、我等は神に遭ふのである。喜んで父の神にめぐり遇ふのみである。

神を求めんとわれ云ひて
晴れたる空に彼を求めぬ
されど藍碧茫乎として眼にあり
天地無情闃として答へなく
落莫孤獨たゞわが身にしむのみ。
されどなほ神を捜し求めんと
大海原に其御跡を尋ぬれば
海草もつれ白浪騒ぐ磯邊に行きぬ。
海波空しく砂を嚙みて石に激し
飄萍たる青海原は寂寥を湛ふ。
されど夕陽沈みて獨り坐す時
落日を入るゝ窓の邊に
あはれ、われは膝屈めて祈らざるを得ざりき、
かくてわれ神に見出されたり。

× × × × ×

祈の力より

祈禱をするに二種ある。

一、眼をもつて居るが見ないし、耳をもつて居るが聞かないでたゞ傳説、慣例、漠然たる滿足或は、義務の感の爲に祈の習慣をつゞける人々の祈

二、よし朦朧であらうとも靈魂の未知の世界の幻を見た人々の祈——幻は教養のある人と同樣に無學の人にも來るものである。靜寂の中に來り、生活に新しい目的を與へかくて一切の物の見方が變つて來る。

如何哲學も論證もあの靜な門を通して幻の我を忘れる世界に靈を導くことは出來ない。それは一度認めた時には靈の落着場所となる。確實で變る事のないその爲には生き度いと思ふある者生命よりも更に優れたもの、それが爲には必要とあれば死も厭はない死よりも更に尊いある者そしてそれは較べる者もない友情の感を持たらすものである。

バタソン

平和と婦人

――某女史に答ふ――

ドクトル、オブ フイロソフイー 小島茂雄

一

頃日、某女史と性の問題を語り合つた時に、談偶ま兩性分業の限界といつたやうな問題に及んだ。而してこの問題に關する女性側の代表的論客として山田わか子女史と與謝野晶子女史との所説が話頭に上つたのは極めて自然なことである。たゞ私の意外に感じたことは、某女史が山田女史の母性擁護論の熱心な贊成者であつて、平和問題の如きも母性擁護の問題を先決してかゝらねば無益だと主張してゐたことである。

成程、平和と母性との間には最も親密な關係があることに何等疑義を挾む餘地はない。然しながら平和は女だけの問題ではない、從つて平和運動は婦人の專賣であつてはならない。又平和は「男」だけの問題でもない、從つて世界の平和は男子の協議にのみ一任せらるべきものであつてはならない。平和は實に「人」の問題である。從つて男子も婦人も共に「人」として顧慮すべきものでなくてはならない。

二

山田女史の母性擁護論に暫く耳を假せ。「婦人の職業は婦人の此の母性の力を破壞しない範圍に止めなければならないものだと云ふことになります。日頃私が婦人の職業に反對致します理由は職業そのものが惡いと云ふよりは寧ろ職業が多くの場合母性を破

壊するから不可としてゐたのであります。ですからもし、婦人の職業が母性の増長となるものであるならば、勿論それは有益でありますから大いに奬勵すべきものであります。」といふのが同女史の主張である。從つて同女史に依れば婦人の職業は家庭の仕事の延長である。例へば、學校教師とか、婦人科小兒科醫師とか、裁縫師とかいふものを適當として、他方に、例へば、女工の生活の如きは婦人を女性として不具者とし、心理的にも生理的にも母性を破壞するものである。女史はかう言つてる、「實にこの女工の生活が女性の特色、母性を破壞する標本であります。もし、彼女等が經濟上の獨立と云ふことをもつて全然滿足出來て、一生を勞働者として、又は、中性的人間として送ることが出來るならば、それでもよろしいのですが、もし、彼女等が結婚を慾望する時に、そして、其の結果、子供をもつて家庭を造らねばならなくなつた時に、生理的に心理的に女性として不具者、母性を破壞されてゐたならば、其の不幸と悲慘は、確かに、本人計りに止まるものではありません」と。如何に女史が眞摯な母性擁護者であるかゞわかるであらう。

熱心であり且眞摯であるとはいへ、山田女史の母性擁護論が單に如上だけのものに止まるならば、吾が國在來の良妻賢母主義と少しも異なるところがあり得ない。然らば如何なる點に於いて女史の婦人評論に革新味が含まれてゐるかといふに、それは、言ふまでもなく、男性中心の社會に反抗して熾んに母性を擁護することに存する。女史はかう言つてる、「永い間男子中心であつて結果今日此の片輪な文明が出來上つてしまひました。此の片輪を完全なものに造り直すには女性の力が社會の心理的中心にならなければならないのであります」と。そして女史は子女の教育問題に論及して、次ぎの如く結論してゐる。「今迄は何處の家庭でも男の子にはみつちり學問させて　女の子はいゝ加減な處で學問を止めさせると云ふのが例であつたのでありますが、これは全然間

違つてゐます。男子にも教育があればある程いゝには相違ないのですが、男の子と女の子と二人あつて家庭の收入は其のうちの一人だけしか高等教育を受けさせられないと云ふ場合に、今迄の習慣は男の子に勉强させたのでありますが、併し私はさう云ふ場合には女の子の方に勉强させべきだと思ふのであります。……一人前になつた婦人は次の時代を、則ち子供を創造しなければなりませんから、男子以上の教育を受けてゐなければならぬものです。賢母が偉人を造つた例は數へきれない程ありますが、賢父が子供を優れたものに仕上げたと云ふことは餘り聞きません。男子は其の社會上の位地が何であれ、職業が何であれ、とにかく現在の用をすればよいのですけれども、婦人には未來を創造すると云ふ大任があります。ですから、女の子を教育するか、男の子を教育するかと云ふ場合には、勿論女の子を教育しなければならないのであります。」（圏點は私が勝手に附したものである）。

三

引照が少しく長過ぎると思つたが、特に忠實に田女史の見解を前項に紹介したのは、そが、確かに現今の婦人問題評論の有力な一典型だからでもあるし、又同時に某女史の露はに示された態度でもあるし、更に他にかゝる某女史の多くあることでもあるからである。

この種の評論には吾人の見逃してならない一つの著しい誤謬がある。それは倫理學者の所謂矯正的反動といふものである。この矯正的反動は單に婦人問題に關してばかりでなく、凡ゆる社會改造問題に關聯して目擊せらるゝところのものであるが、今は暫く婦人問題にのみ關して言ふこととする。

これまでの世界は、實際、男のために男がつくつた世界である。そこでこの男中心の世界に所謂新しい自覺を持つた婦人等が出て來て、婦人をば男に都合のよい良妻賢母主義てふ鐵鎖から解放せむとすることには莫大の意味がある。然るに彼等の多くはこ

の男性中心の弊を矯正せむとして、極端に女性中心主義を鼓吹する。時計の振子のやうに極端から極端に行く。これをしも矯正的反動とはいふのである。曩に、吾が日本には、男子の專横を矯正せむとして自ら吉原の遊廓に登樓して五色の酒をあふつた「新婦人」があつた。これ程の無茶苦茶な矯正的反動はないが、右に擧げた山田女史の評論には、思想上、これと殆んど同樣に無理解な矯正的反動がある。女史は男性中心の弊を矯正せむとして女性中心の反動を露骨に示してゐる。女史の言ふところに依れば、女性は即ち母性で、子供を創造し未來を創造するが男子は現在の用をすればよいのである。

まさか山田女史は女が一人で子供の母になり得ると考へてるのであるまいが、さりとて餘りに無反省な議論をする人である。男性中心の現前の社會は矯正を要する、然しながらこれを、恰も蜜蜂の社會の如くに、女性中心の社會とせむとするは、軈て男子の陷つたと同じ專制の誤謬に陷るものである。こゝに矯正的反動に含まれてゐる道德的誤謬が暴露せらるゝのである。要するに、山田女史の母性中心說は(與謝野女史は崩壞せる良妻賢母主義の變形だと言つてゐるが、事實はさうでなくて)女に都合のよい**良夫賢父**主義の別名である。

四

婦人の眞の自覺は「吾は人なり」といふ自覺でなければならぬ。この自覺が男子中心の世界に反抗することは當然である、然しながらそれは、前項に言つたやうに、矯正的反動に走つて女子中心の主張であつてはならぬ。男に都合のよい**良妻賢母**主義が誤謬であるやうに、女に都合のよい良夫賢父主義も亦誤謬である。男尊女卑の不合理なる如くに、女尊男卑も亦不合理である。男も男子中心の專制を棄てゝ「人」としての自覺に目覺めなければならぬ。然しながらそれにもまして緊急なことは女が一日も早く「人」としての自覺に奮ひ起ることでなければならぬ。

五

吾が國の婦人評論家の中で、兩性の區別を是認しながら、而もその上に女の「人」たる自覺を皷吹してゐるものに山川菊榮女史と與謝野晶子女史とがある。曾て後者は前者を評して、『我國の女流學者の中で、性別に由る分業の不合理を最も大膽に論ぜられる人は山川菊榮夫人の外に見當りません。この一兩年、殊に婦人の徹底した急進論は多くの保守主義者をして顏色なからしめて居ます。一人の山川夫人が先頭に立たれる奮鬪に由つて、日本婦人はどれだけ啓發され、どれだけ勇氣づけられて居るか知れません』と激賞してゐる。さりながらこゝには與謝野女史の所説を引照するに止めて置く。そして改めて多くの某女史の參考に資したいと思ふ。

吾人は、先づ、女史の論説が、山田わか子女史のそれとは異ひ、その出發點に於いて明らかに女の犯すべからざる「人」たる尊嚴性を高調してゐる。女史はかう言つてる、『これまで男と云ひ女と云ふ性別が人格としての優劣を決定して、動かすべからざるものになつて居ました。即ち「女に何が解るものか」と云ふのが何人も怪まない眞理でした。同時に性別がまた人間の活動の範圍を限定する絶對の標準になつて居て、「女の關係することでは無い」と云つて拒まれることが無數にありました。是等のことは要するに男尊女卑主義です。性に由つて人類の間に貴賤上下の差別を附ける階級思想です。男子のみを立派な標準的の人間として尊重し、女子を劣等な第二次的の人間として見下す所の思想です』と。若しこの點に於いて女史が女子中心説或は母性中心説に反動するならば、山田女史の所論と何等異なるところがないわけであるが、近年リップスに私淑してゐる女史の見識は女史をして次ぎの如く言はしめてゐる。『歐米に行はれて居る現代の女權運動と云ふものは實にこの人類の分業觀の訂正を要求して居る運動です。言ひ換へれば性別に本づく一切の不自然な差別を破棄して、唯だ最小限の差別に削減して仕舞はう

とするのです。最小限の差別とは、男子は姙娠しないが女子は姙娠すると云ふ生物學的の一事件を云ふのです。この一事件を外にして、性別から人間の分業を決定さるべき何物も無いと云ふのが女權論者の主張です。さうして此事は今や進歩した現代の思想家に共通する新發見の意見として擡頭して來ました。』而して吾が國に於けるこの意見の雄辯な婦人代言者を吾人は與謝野女史の中に見出すのである。最後に女史は次ぎの如く斷じてゐる、『因習を打破することは或時期に於ては困難なものですが、またそれに適した好い時期が來れば案外に容易なものです。我が國は確かにその好い時期に入つて居ます。良妻賢母主義が崩壞した以上、その變形である母性中心說――女子の本務を生殖の一事に置いて、其他の活動を之に從屬せしめ、若くは出來るだけ變則的行爲として除外しようとする說――の如き影の薄いものとならざるを得ません。私達は人間の活動の全部を文化生活の內容として役立つ限りに於て甲乙なく尊重し、その中に自由に適した活動を自己の生活體系に委く攝取しようと考へます。人の親となることは固より、戀愛の協同者となり、友となり、市民となり、敎育者、藝術家、學者、筋肉勞働者、技師、官公吏、醫師、海員等の何れにもなりたいと思ひます。その選擇は一に自己の個性に內具し、且つ敎育に由つて精錬し得た能力に由ります。女性としての親、即ち母となることの外は、性別を顧慮する必要がありません。餘計な顧慮を强ひられて、男子の家庭に從屬者たる境遇に久しく跼蹐して居たればこそ、女子は男子と同じ人間でありながら、現に見るやうな倚形な狀態に傍滯して仕舞つたのです。』

六

私は殆んど無條件に與謝野女史の婦人觀に同意を表するものである。而してかゝる卓見が倫理學的に批判して確かに矯正的反動と見做さるゝ母性中心說などの主張と共に、玉石同架。相並んで新聞雜誌讀者の注意を惹いてゐるのを見て、私は吾が國の婦人

問題評論が未だ全く幼稚な過渡期を脱してゐないことに氣が付くのである。更に私は最近平和と婦人との問題を云爲するもの丶中に、某女史の如く、平和唱導の根據を母性に置いて平和を婦人の專賣の如く論ずるものあるを見て聊か啞然たる感を持つのである。

繰り返して言ふが、婦人問題にせよ、婦人に則する平和問題にせよ、その解決は、理論的にも將た又實際的にも、男と女とが共に「人」として自覺反省することにある。男の專制でもなければ、女の專制でもない。從つて良妻賢母主義でもなければ、良夫賢父主義でもない。男か女かの「何れか」の問題でもなければ、男も女も「何れも」の問題でもない。問題は男も女も「共に」人格者であるとの問題である、而して問題は他にあるのではない。(完)

法律講話

婦人と法律

岡崎應介

一 はしがき

法律と言へば、直に面倒だと投出されますが、私達の日常生活は、殆ど法律生活ならざるはないのであります。食物は私達の生命維持の手段であり、食物なくして私達の生命は保たれないと同樣、法律は私達の共同生存の要具であつて、法律なくして私達の社會生活の安定は保たれ得ないのであります。外出の際電車に乘る、買物をする、土產を贈る、何れも法律行爲であつて、法律的立場から考へますと、電車に乘るのは電氣局と運送契約を結ぶのであり、之によつて電氣局は約束の所まで私達を運ぶ義務を負ひ、私達は運賃を支拂ふ義務が出來るのであります。結婚の如きも亦婚姻契約と言ふ法律行爲であつ

て、其結果女は妻と言ふ身分を取得し、一定の行爲例へば他人に身體の束縛を受ける契約を爲し、又贈與や遺贈を受けたり拒絶するのには夫の許可を必要とし、又夫と同居の義務を負ひますが、同時に扶養を受ける權利を得、殆ど遺棄にも等しい行爲を夫がするならば、之を理由として離婚を請求することも出來ます。

如斯法律は私達の日常生活に密接な關係を有し、且つ何等道德と矛盾するものでありません。道德から考へても、男女同權と夫妻平等とは同一に論ずるを得ない、夫の意思に反して他人に身體の束縛を受けたりすることを許されないのは當然であります。道德を放れて私達の生活が保たれないと同樣に、法律を放れて私達の生活安定は期待し得られないのであります。少くとも建全なる社會生活を營むことは困難であります。それは法律が、私達の生活要具であり、道德、宗教と其使命を同じくし或點に於て法律は道德の反映とも考へられるからであります。然るに面倒な道德律に對しては、何等の苦痛をも感ぜず、獨り法律に對して面倒なと投出されるのは、要するに其常識の乏しい爲に外ならぬのであります。併しながら此常識を欠ぐときは、獨り婦人運動の絕望的に失する恐あるのみならず、生存競爭上不慮の損失を被ることあり、從つて圓滿なる社會生存を保ち難いことが多いのです。現に婦人が社會の弱者とされて居る原因の一つも此所にあると存じます。玆に於て近來女子大學でも、大いに女子の法律常識涵養の必要を認め、新しく法律講座が設けられたのは極めて至當のことであります。又從來婦人の運動が動もすれば姑息的感情的だつたのを、理智的に其根帶を置き、私達の生活を文化的ならしむる御計畫に讃し、及ばずながら極めて平易に、且つ比較的實生活と直接利害關係の多い題目を選んで、何處までも基督徒者としての立場から此のお話を續けたいと思います。

第一　婦人の公法上の地位

私達の國家に對する關係は四通りに大別出來ます。第一に私達は國家の支配權に服從しなければならぬ、是は國家生活の當然であります。第二に或範圍に於ては國家の支配、干涉を受けないのであります。國家の支配權は絕對無制限でないので恰も妻は夫の命に從ひ、子は親權に服するが、或範圍に於ては、夫又は親の干涉を許さないのと同樣であります。是即ち自由權で、帝國憲法の第二章に於て保障する所です。憲法は信仰の自由、言論著作の自由、財產所有、住居移轉の自由、其外種々例記して居ますが、私達の自由は此例記のみに止りません。而して此自由に制限を加へる必要あるときは、一定の手續による外妄に制限するを許さないのであります。第三に私達は、自己の利益享有の爲に、國權の發動を要求する權利があります。例へば、訴訟を起して利益保全を計る如き場合であります。第四には、國家構成の一分子として國家の公務を行ふのであります、即ち國法の定むる所に從つて、國權に參與する權利を有するので、之を參政權と申します。此意義に於ける參政權とは官吏となつて行政權、司法權に參與するのも包含するのであります。詳說すると、國家の機關として國務を擔任する場合（議員の權利官吏の權利、選擧權等）と自己の事務として國務を行ふ權利を與へらるゝ場合（公共團體の自治權、辯護士の職務等）を含むのであります。此權利は國家の公益上認められたので、此點に於て義務たる性質を有しますが、國家の一員たる私達は、國家が如何に行使せらるゝかにつき直接利害關係が深い、故に自ら國務に參與するのは私達の利益で、之を權利として尊重するのであります。

而して參政權を如斯廣義に解するならば、教育、電話事業も亦國家の公務なるが故に、教師となり、交換手となるも亦婦人の參政權なるかと疑ふ方があるかも知れませんが、前者は暫く措き後者は專ら私法關係によるもので、公法上の權利ではありません。且つ狹義に於ける參政權は、立法に參與する權

利で、通常參政權とは此意義に用ひられるので選舉權被選舉權がそれであります。而して若も私達の社會生存上直接行動が有害にして、議會主義によるを最善なりとするならば、私達は何處までも狹義の參政權を最も尊重しなければなりません。以下參政權と云ふは此意義の參政權であります。

以上の四種の關係は、市町村に對しても從つて、社會に對しても、同樣であります。然るに社會上に於ても、國法上に於ても、婦人は第四の關係を完全に有しないのであります。否婦人に參政權は與へられて居ないのであります。僅に市町村議員選舉に於て、其納稅額が市町村公民（註）の最も多く納稅する者三人中の一人よりも多き女子のみに選舉權を與へられて居るにすぎず、而も女子自ら此權利を行使するを許さず。必ず二十五才以上の帝國臣民たる男子を代人としなければ行使出來ないのであります。況んや國政に參與するが如き、絕對に許されません。加之婦人の政治運動、例へば政黨に加入したり、結社をなすは勿論、公開の政談集會に出席することすら、治安上有害として禁止せられて居る。（治警第五條）社會上に於ても婦人の人格を無視した點が甚多いが、其罪果して何人にあるか？兎に角從來の社會敎育は、之を無批判の下に肯定し、何人も敢て怪しまなかつたのでありますが、如斯不合理な法制、社會組織は、自由平等を綱領とする基督徒者の到底認容し得ざる所であります。さらば基督敎の普及に從ひ、女子敎育社會文化の進步と共に、男女の自覺殊に女子に社會構成分子としては男子と同然の關係を有し、能力も亦男子に劣らざるものとの自覺が芽萠え、從來國政に發言權を有しなかつた貧民階級の勃興に刺戟され、漸次赤熱し、社會的には婦人の解放運動となり、法律上は衆議院議員選舉法並に治安警察法の不合理を鳴らし、先づ婦人の政治運動の自由を恢復し、參政權の獲得を企圖せらるゝに至つた理論上からのみ考へるなら、此運動は當然のことであり、殆ど疑を挾む餘地もないのであります。以上

（註）　公民ノ要件
1 二十五歲以上ノ男子ニシテ日本臣民タルコト
2 獨立ノ生計ヲ營ムモノ
3 二年以上同一市町村內ニ住居スルコト
4 地租[illegible]直接國稅年額二圓以上納ムルコト
以上ノ[illegible]法免除的原因ヲ有セザルコト

の如く、公法上最重大なる參政權、並に自由權に於ける婦人の地位は著しく男子より劣るが、社會的には更に其自由を制限せられて居ます。私の說明するまでもないでせう。若夫れ其自由の制限が、同時に婦人の利益たる場合に於ける、法律上の保護は漸次厚くなりつゝあります。例へば刑法上婦人權、從來の社會觀念上貞操權は夫の爲に認められたものですから婦人自身の爲の權利については、私は婦人權と稱へますが是は特別の保護を受けます。又勞働婦人に就いては、一日十時間を超えて就業せしめるときは、特別休日を與へなければならず、夜間は午後十時より翌朝午前四時までの就業を嚴禁してあります。產婦の保護に關しては遺憾の點が多いけれども國際勞働會議の決議に基き漸次改良せらるゝことゝ信じます。が、之は婦人自身の爲と言はんよりも社會利益の爲の保護であります。

現代英文學者の宗教觀

舟橋雄

「夜々我を蓋ふ。極から極まで
洞穴の樣な暗いなかから、われ神に謝す。
其神が何であらうとも
このわが征服し難い靈の爲に。」

一九〇三年に死んだ雜誌記者ヘンリは、神を否拒した其暗い淋しい心の奧底から、こう叫んだ。現代詩人中の巨匠ハーデーは「神の葬儀」を歌ふ程の無神論者であるが、其慰安を求めた厭世主義にも猶宇

宙の空虚を醫す力なきを感じた。

十九世紀の末葉から二十世紀にかけての歐洲思想界は、宗教を全く放逐して了つたけれど、彼等は果して心靈の安きを獲たか。イプセン劇やショウ劇に於て宗教はいつも愚弄の的となり、少くとも諷刺の對象となつたが、個人に取ても團體に取ても、將又社會に取ても、謙遜と、向上、歡喜と勇猛心、自制と、自己肯定、靈感と大膽、是等兩極面の心情を乘起さしむべき生のプリンシプルとして彼等宗教に代るべき何物を指示する事が出來たか。

二十世紀の初めに歐洲一般に、人心が宗教を離れて了つたのは、文學の罪ではない。文學は唯當時の人心を反映したに過ぎない。文學が宗教を棄てた前に、宗教が世を離れて了つて居たのである。宗教が世を救ふ目的を忘れて、徒らに形式に流れ、傳説にのみ拘泥し、若くは教義にのみ囚はれて、時代の進運に伴はなければ、いつの時代でも生命を失つて了ふので、之に救を求むる者等に滿足を與へなくなる隨て不信と暗黒とが世を領する事となるのである。

私は今二十世紀の初めの傾向が、文學と宗教との絶縁に在た事に言及したのであるが、其後の作家が宗教に對する觀方を察すると、大に宗教家の參考になる點があると思はれる。今僅かに現代文學者二三を採り、夫等の人の最近業に就て現代人の宗教觀を訊ねて見たいと思ふ。

一は英人ヒユー、ウオールポール。新進作家の内では流行兒の一人である。彼が一昨年の作「ジエレミー」を例とする。これは丁度八歳の誕生日を迎へた男兒が、急に一人前になつた積りで喜び勇んでゐる所から初まつて、彼が初めて學校へ上る爲に出發する朝まで十ケ月かそこらの事件を材料としたものであるが、兒童心理のいかにも如實に寫されてゐるので、我々の注意を惹く。この内にある時、母親のお産に續いて、危ふく生命を失ふ位の大患に罹つた事が出てゐるが、こゝに子供の宗教心の發露と見るべき一、二事變が起されてゐる。其日は前から子供

心に大事件が起りつゝあると感得されて、「母の病床に近づく事を許されなければ許されない程、尙更母を氣遣つてゐる。常の仕事も手につかず、散歩も面白からず、丁度日曜に際して、父なる牧師の說敎を敎會で聞くと、父は非常に沈痛な面持をしてアブラハム、イサクを献げる話をしてゐる。體驗を通して來ない宗敎に何の權威があらうぞ。憂愁に閉された家族の者に執てはけふの說敎は言々肺腑から出てゐるとしか感ぜられない。しかし其主意は例の陳腐なポーロ敎に累された『秋毫も犯すなき神』の槪念である。現下の憂苦は畢竟何かの罰の樣に響いて來る『神の愛は地上いかなる緣よりも偉大だ』。『神は愛する者を鞭つ』。結局神は我々に最も大切な何物かを犧牲にせよと命じ給ふとのパラドックスが宣べられてゐる。子供心には死てふ漠然たる感念の裡に、金の立琴や、どこかの遠い國や、讚美歌のコーラスなどが聯想されて來る。

ジエレミーは家に歸つて來ても、今日に限つて一層なつかしい母親に面會する事を許されない。姉妹等すら次室へ行て着物を換へてゐるのに、自分許り愛犬ハムレットと共に、所謂『學校室』に殘され、家庭敎師が普段よりも嚴格な顏をしてゐるのに取り付く島もない。父親は自分を大きな子供といふ團體の一員とは認めても、自分の個性に觸れる所がない。そして神は怖れを起させ樣とてか紫雲の奥深く潜んでをられる。

今夜は母の爲に最も危險と知られた夜が來た。ジエレミーは家續きに設けられたガラス張の温室に、獨り犬と共に殘されてゐる。夕方から初まつた雷が追々と迫まつて來る。電光閃々。白雨の音を壓して雷が殷々と鳴り轟く。『お母さん、お母さん』と叫ぶ聲は室外に漏れないらしい。扉は堅く閉されてゐるさすがいたづら盛りのジエレミーも室の片隅に植木鉢や道具類の堆積したなかに、蹲つて、かの怖ろしい神に、『ハムレットを上げますから、お母樣を救つて……』と祈つて見た。折から巨人が鐵挺を揮ふて

我家を撃つた樣な雷りが、ビリビリッとすべてのガラスを振動させて、物凄く云に上るのであつた。ソラ神樣が自分の背に飛び懸り給ふたかと、ジエレミーは一圖に逃げんと眼を開いた。見廻すとハムレットがいつか見えなくなつてゐる。

犬はやはり無事に、他の場所に隱れて居た事が後に知れた。母親はその後漸次回復した。してジエレミーは成人してからどんなに偏理的教育を受けても、決して一掃し得られない或宗教觀を其時得たのである。しかし單に此記事だけの事であるならば、いかに子供の宗教觀が、彼等の日常生活に觸れないものであるかゞ明かではないか。彼等が持て生れた自我肯定が、其遊戲に於ても、勉强に於ても、最も意義ある宗教心、神を慕ふ心根を養ふ根柢をなすではないか。恐怖に則した宗教が子供の純な心を傷けなければ幸である

次に一瞥したいのは、やはり一昨年上梓されて米國の讀書界を風靡したシンクレヤ、ルイスの『本町(メイン)通り(ストリート)』である。米國中西部の一小都會を背景として中流階級の風俗人情が遺憾なくこゝに示されてある。現代の米人は恐らくこれを以てあまり露骨に平凡相を發揮したものとして外國人に讀ませるのを好まぬであらう。我々社會の實相に興味を惹かれる者共は、縱ひ多少の誇張があるとしても寧ろこの描寫を貴いものと見たいのである。都會を離れた世界の何地たりとも、これ以上の文化があらうとは思へない。こゝゴーフアー、プレヤリのに世間ありふれた自稱紳士淑女の群が、陽に詩を論じ、劇を仕組み、圖書館を建て、道德を誇つて居ながら、陰に嫉妬と讒謗と、自分勝手と、貪慾との限りを盡して獨りよがりの生涯を續けてゐる、女主人公キヤリーが、夫なる醫師ケニコットの淺薄、卑俗なのに、愛相をつかしてゐるなかにも、自分の周圍の爲に何等かの近代的改造を試み樣として努力する効もなく、隣人等の惡評の的となり、保守で固めた道學者流の顰蹙を招いてばかり居る。丁度歐洲大戰最中の事とてある

日曜日「米國よ、汝の問題を解け」と題した說教を開かうと、珍らしく家族と共に浸禮派の教會に出席する。各國勞働者が工業を獨占し樣としてゐるし、露國はケレンスキに對して左傾的革命を起さんとしてゐるし、婦人は將に政治に關與せんとしてゐるし世界問題なきを憂へない。聽衆の心に種々の期待を以て常にない緊張味を示してゐたのは無理はない。

意外、意外、意外。若い牧師は、普通なら少くとも現代の諸問題に對して一應の理解あるべく期待さるゝ若い牧師は、まづ新經濟說を呪ひ、科學を以て宗教の敵とし、社會主義を惡魔の道具と脫線し、此等のものが孰れも變裝した無神論に外ならぬを說いた末、結局モルモン主義を警戒し、禁酒國の實現を慫慂したに止まらうとは、聽衆中のキャリーはいつか輕い睡りに落ちてゐた。しかし說教者もさまで眼覺めてゐたとは思はれないではないか。思想問題の紛糾した今日に於て、基督教に解決を迫つてゐる問題も少くない。もし基督教が活きた宗教であるならば、かゝる時代にこそ其の光輝を現はすべきではないだらうか。

第三に我等は昨年出た英人バーナード、ショウの最近業。「メトセラ時代に戻れ」と題する戯曲を採てこの有名な無神論者の宗教觀を評して見やうと思ふ。この劇は人間の生命が一般に延びて、三四百歳迄生る樣になつた時代の事を想像した一大長篇であるが、其第四段第二幕以下によると、英國は非常に廣汎な國となつて、バグダッドが其首府となり、故の島國は神聖な智惠の神殿として一面の森を現出してゐる。そこへナポレオンや、英國政府の使節などが、神託を受け樣とてやつて來る。基督教が廢れて回々教が流行する樣な時代も暗示され、宗教家の代りに巫女が原始的な託宣を下しなどするから、著者の心には宗教を動もすれば迷信視する癖が凝り付いてゐるのを示すのである。此三幕を見ると恐ろしげな深淵に臨んだ橋の上で、使者等が蛇形の巫女から、「家に歸れ。馬鹿者」と罵られるが、其前後の光景は

疾風やら、電光やら、雷鳴やら馬鹿々々しくメロドラマ式に出來上つてゐて、然も巫女の言を其の儘復命するわけに行かぬから、使者等が打寄つて、いい加減に託宣めいた文句に造り上る事になつてゐる。

ショウはダーウヰンの進化説に倣らないで此處をかいたのである。ダーウヰンは適種が生存するとか自然淘汰に依て現に見る生物界が出來たとか、全く宇宙から目的とか意志とかいふものを排斥して了つた。しかしこれでは一種の宿命觀に墮せなければならない。これは何でも意識を肯定する事に依て一條活路を見付ねばならぬと氣が付いた。即ち自分の意志一つで人はどんなにでも長命し得る筈だと極めて了つたのである。人智が進み、子供が自意識で生れる樣になれば、親は一種の貸り物に過ぎなくなる。そこで宇宙意識を肯定する必要に迫られて來た。ショウは天地に瀰滿する『生の力』といふものを設けて、この要求に應ずべく餘儀なくされた。これは成程『生』の事實を幾分か説明するかも知れない。しかしショウは自分の理智的體系を宗教と同一にしたくない。止むを得ず『生の力』を無意識なものと説き、それが人類に、特に女子に乘り移るに至つて、意識を得るのだと補つた。いかに苦しい立場ではないか。宗教をすべて迷信なりと斷言した位では、ショウ哲學の缺陷は依然として殘つてゐるからおかしいのである。

以上僅に二三子の宗教觀を批評して見た迄であるが、現代の社會相から言ても、思想傾向から言ても基督教がまだ幾らも貢獻すべき或物を有てゐる事は明である。惜しい事には宗教家自分が宗教其の物の貴さに十分眼覺めて居ないのではないか。

（二一、一、十七）

「彼に語れかしさらば聞き給はん
かくてぞ靈と靈とは逢得なり」

テニソン

ミルトンの罪觀

村岸清彦

この一篇はストロープ氏の著The Fact of Sin の一節「ミルトンの罪觀」を抄譯して、多少私の意見を附加したものです。

ミルトンは崇高な詩人であり、又一種の詩的神學者でもあつた。彼の各篇たる「敍事詩」は、全然聖書的で、その中心思想は罪の事實に立脚してゐる。先づ吾人は、「失樂園」の基調を不朽の詩篇の最初の數行に於て見出す事が出來る。

抑も人の子は、最初の不從順から
禁制の樹の實を口にした。
……かくて「エデン」は失せた、
偉大なる「人の子」が來て、再び吾等を恢復し
惠みの座を獲得する其時まで。

まことミルトンの詩句は、永遠の攝理の眞理を主張する祈禱から迸り、神と人間とを相互調和の生活に導かんとの熾烈なる熱望に充ちて居る。

「樂園」は、ミルトンに據れば、理想的にして至幸の世界で、その住民は惠まれた者達であつた。サタンは「敍事詩」中の主人公で、「人類墮落」の最初の原因であり、「詐譎を以て人類の母を欺いた地獄の蛇」であつた。

即ちサタンは、常に神の高遠な意志に反して行動し、「惡のみを唯一の快樂とする者」として描かれてゐる。「神の攝理」が、吾人の惡よりも善を引き出さう」とする時に、「その目的を壞り、善の中からでも何かの惡の手段を見出さう」と努力するのは、洵

このサタンであつた。

この事は、吾人の日常生活に於ても個人的意識に於ても眞理である。即ち善の敵たる首魁は、遂には打ち破られ「燃ゆる池」の上に鎖を以て縛られ乍らも、依然として手強い反抗を續ける。仍でミルトンは被追放者の口をして「天で奉仕するよりは、地獄で統御する方が増しだ」と叫ばしめて居る。

ミルトンは、人間の自由と責任とを如何に觀じたか。彼は謳ふ——

我は人を直く、正しく造つた、
墮落するのは自由だが、
起つにほどよき足場を與へた。
かくて立てる者は起ち、陷ちし者は落ちた。

道德の世界は必然の上に樹てられない。自由なき世界を想像できても、其中に人間を責任ある道德的實在として置く事は能きないのである。かくてミルトンは人間を道德的存在者とする限り、人間に自由と責任とを持たして居る。

人の子等は、自ら反逆を決行した。
「我ではない」。
「我」は、豫めそれを識つたが、
先見の力も、人の子等の過失を矯め得なかつた。

例へば、兩親は小兒のする行爲を豫知して居ても夫を知れる故を以て、小兒の撰擇の自由に干渉ができない。だから豫知は、自由を超越するとは云ひ得るが行動を決定するものではないかくして、ミルトンに取つては罪は、全く自由と責任とを有する人間の側の失敗であつた。

人自らが其墮落を設けた
最初の一群は、聊かの暗示から
自惑と自敗とに陷つた。

乍然救濟を計畫してゐる神は、かく述べる。

我は、罪に汚れ道ならぬ慾望に溺れて
力を喪つた人の、萎へた力を新にする。
斯くて人は我手に支へられつゝ今一度

以前の地の上に、不倶戴天の敵と
面を合せて起ち　るだらう。
我は又人の心に、導きとなる我が良心の
審判者を住まはせやう。

斯くの如く、神は救濟の方策を設けたが、ミルトンは「罪を天の最高權に對する反逆」だと觀たので反逆者たる罪人は一切を失ひ、其子孫末裔を擧げて死すべき運命を持つものとなした。而して彼は更に死すべき運命の罪人が救はれる爲めには「死にて死を償ふべき賠償」が、反逆者に依てか乃至は正義の人に依てか、兎に角孰れかに依て拂はれねばならぬと看たのである。

けれども十分の賠償は、罪人の側からは捧げられ得る見込はない。仍でミルトンは「人の子」をして叫ばしめた。

……我を見給へ、人に代りて
生命に生命を與ふる我が上に
汝の怒を灑ぎ給へ、我を人と目し給へ。
我は人の爲め汝の懷を離れ
汝に次ぐ榮光をも棄て、彼等に代りて
死をも喜びませう。
我上に死の怒りを置き給へ、
かくして、「天の愛」をして
「地獄の憎惡」に勝たしめ給へ。

斯うして基督は化身し、アダムに代つて新種族の首となつた。彼は謳ふ——

一人の罪から、全人類の滅びが來たやうに
第二の根から甦される程の者は
凡て復活し來るであらう。
アダムの罪が、其裔を禍した樣に
「汝」の功績に依り、人は己が正も不正をも
全く捨てゝ、
只「汝」の懷に移り棲み、「汝」の手から
新生を稟くるであらう。

その初、「罪の悲しい現世への侵入」の哀歌を謳へ

たミルトンは、今や晴やかな「救極」の悦びに溢るゝ合唱を聲高らかに歌ふのであつた。

我は曾て、只一人の違背から
幸多き園を失つたと歌つたが
今は全人類に樂園の恢復を謳ひ告げやう。
それは有ゆる誘惑の試練をけた
只一人の堅き服從から來る、と。
「誘惑者」は、凡ての詭計を蹂躙られ
打ち碎かれて追放された。
かくて「エデン」は、荒野の眞只中に
いと高く擧げられた。

「失樂園」は、恢復さるべき「樂園」の存在を人に保證する。然し、贖罪的事業の解剖は、次の「叙事詩」に讓られてゐる。犧牲は献げられ、天に於それは嘉納されたが、而も罪が有効に救治されるには、更に神人の合一と神秘な接觸とがなければならない。而してミルトンに依れば、基督の化身は如上の必要から具現したのであつた。

まこと「化身」は、惡の教唆と有ゆる勢力とに抵抗して、これを地獄に追ひ込み、且最初の人が思ひがけなき錯誤から失つたものを恢復する」神の意志表示であり、他面に於てはサタンの敗亡の徵候であり、保證であつた。とは云へ、惡は依然として詭計と瞞着とを用ゆる異常の勁敵である。仍でミルトンは「罪」と「死」てふ人間の二大仇敵は、二つ乍ら基督の手に依て征服せられねばならぬものと觀た。

かくてミルトンは、その詩の終りの數行に於て、緊張せる大醉歡喜の情感を漲らして、恁う歌ふてゐる。

「いと高き者」の子に榮光あれ
彼は善惡兩界の嗣で、サタンの征服者！
今や、汝の光榮ある鴻業の時期に入り
人類の救極を創め給ふのだ。

要するに、ミルトンの罪は、神意に對する自由意志よりの反逆、少くとも違背であつた。この點では

彼はダンテの繼承者である。しかしダンテが罪を以て神意の永遠否定だとなしたに反して、ミルトンが罪を以て贖ては「至善者」に依て征服さるべきものと觀た所に、後者の罪觀の樂天性があり、明るさがある。又この二者が、罪の永遠的憎惡な力説した點で相似てゐるとしても、ダンテが僅かに「煉獄」に救ひの希望を置くのみで罪の住居たる「地獄」に一縷の微光すら惠まなかつた。その重苦しい罪觀に反して、猶罪に贖ひの餘地を殘して呉れたミルトンの光明に滿つる罪觀に吾人の心は惹かれる。(完)

滅びたくないならば外斷片 三

岡崎小文

最近に來た十二月十四日發行のネエーションの中にアナトール、フランスによつてかゝれた「滅び度くないならば」の小論文がありました。世界の大局面を面白く描いてありますので左に御紹介します。私はこれを批評しやうと言ふのではありません。たゞ我々が眞に生きんとするならば、即人類的に生きんとするならば、彼が其結論に言つてるやうに、各々の誇と貪慾とを棄てゝ相結び合はねばならぬと言ふ事を更に深く考へて見たいからであります。世界の平和の根底は愛にあります。誇りは、憎は分離を生じ、死を來たし、愛は結合を生じ、生命を生じます。個人の生命は愛であり、世界の生命も愛であります。人類お互の間に、偏狹な思が捨てられて、正しい人類的の愛が物を言ふ時に眞の平和が來り、世界の生命が成長し、神の國の實現がより明になつて來るでせう。

× × × × × ×

「エナ、ジー、ウエルスが言つてることに十年だか或は今少し前に惑星の住民が月の世界に渡つて、月の世界の住人を支配してゐらつしやるルーナー大王とお話をしました。此お方はちつとも常識に欠けてゐらつしやらないやうに思はれましたが旅人にお尋ねになるには

「地球ではどう言ふ風に皆樣やつてゐらつしやいますか。政府の狀態はどんなですか。

旅行者の一人は「地上の世界は獨立の國々に分たれ其中には大な國や小な國や種々ですが皆熱烈な愛國心に燃えて居ます。愛國心は世界を風靡してゐる熱情です。」とお答へしました。

ルーナー大王が尋ねて言はるゝには「其等の國々がお互に獨立して居るとおつしやいませんでしたかすると如何なる法廷が其人々の爭を裁判するのですか」

「裁判する法廷はありません……國々の誇が許しません。ある國が無法をされ凌辱されたと自分で思ひます時には、武器をとつて權利を守護し或は其名譽の爲に復讐をします」

是を聞かれたルーナー大王は驚きと恐怖とのまじつた表情で地上から來た人を見つめました、そして彼等にはもはや一言もかはさないで、最も危險な、馬鹿者達として即時に幽閉してしまひました。

實際斯樣な組織の結果を洞察するには長く考へる迄もない事である。彼等と其結果とを知りしかも彼等について我々は當然だと思ふのである。

我々が知り得るかぎりの昔の地上に發展した古代文化は、アジア、アフリカ、ヨーロッパに於て、戰に生き戰に死んだのである。今日の文化も同じ運命に立到ることを預言せられる。而も我々は凡ての人類の運命づけられたものを避けんが爲には何等の手もつけないで居る。

恐ろしい戰の後に成立した國際聯盟も、平和を確認する事も出來ず又爲さんともしない。聯盟は其爲に造られたものではない。富も力も獨立もなくて造

られたものである。それはむしろ戰の精神を維持する爲である。聯盟は、自體是を作つた戰爭好きの國々と同じやうである。平和的國際聯盟は現在では不可能である。國々の狀態、精神及職能は戰爭によつて定められた。彼等はたゞ戰を信じ、而して彼等の望は戰によつて定められるのである。畢竟國際聯盟は平和的國際聯盟ではないであらう。

合衆國大統領が歐羅巴及亞細亞のある列强を集めた華府會議、――而して其プログラムの中には、軍備縮少を含んで居るが、――是も世の中を變化させる事は出來ぬ。私が此文を書く時にはまだ此會議は開かれて居ないが其結果は豫想するに困難でない。東西の國々は、彼等の凡て異る所をまげて仲裁に從ふ、そう言ふ事は萬々あるまいが若此考に從はせられた時には立腹して拒絕し爭ふであらう。歐洲文明は常に軍隊的であつた。封建時代には其權利をたゞ刀劍に信賴したのである。佛國及隣邦のデモクラシーの征服は軍隊的精神を擴く擴張して、一種の宗敎となつた。工業の進步は。鐵砲及大砲の使用に新しい口實を作る强國の工場主及商業家は富豪にならん爲に戰を獎勵する、而して思ふツボに嵌ると自分達の利益を少しでも長く得たい爲に制限もなく戰を長びかす賃金値上をされる勞働者は滿足をする。大將は名譽と戰役より來る利益とを獲得し、兵士達は容易く祖國の爲に戰ひつゝあるのだと信ぜさせられる。商人は利益が結末を告げる平和を出來る丈おくらかす丈では滿足しないで、平和が來ると更に再び戰を起すやうに、政治家と計る。斯樣にして英國はメソポタミヤを征服し、又反對のあつたにもかゝわらずコンスタンチノープルを得た。斯樣にして佛國はシリアを得又ソビエットロシヤに遠征を試みたそれは進攻者にはなか／＼の災が多かつた。

全世界が斯樣な愚さの捕虜（餌食）になつてる時に近隣同盟會議の中に調和の力、卽裁判所を樹立する事が出來るとどうして思はれ得やうか、それは不可能の事である。

不可能である今は……しかしいつ迄もしかるか？近年に起つた事件は從來の世界の考へ及習慣に大な變化をもたらすであらう。時として人々に冨をもたらす戰は遂ひには滅亡と死とをもたらすのである。歴史に幾多の例證がある。我々は更に直接に觸るゝ新しい例を見るのである、歐羅巴を荒した長い戰災と戰に續いた平和、それがたゞ延期されたばかりに我々の無智と心なさが信じて居たよりも更に慘酷なる打擊を歐洲の從來の文明に與へたのである。我々は惡の深さを疑ひ始めた。英國、彼の大商業國は、營業裝置を擴張しながら、商業の衰微と失業の危機とを苦しんで居る。而して其結果は未だ知られない獨逸は殆んど破算し、自分と共に佛國を破滅に曳り込む――佛は三百廿五億の負債に苦しんで居る。伊太利も苦しんで居る。ロシアは飢死に瀕し、オーストラリアは死んだ。合衆國でさゑもその事物の漸時惡化するのに驚いて居る。世界を通じて國々は不知の病の爲に野心の夢が裂かれた。大な恐ろしい敎訓がまだ徹底的に了解されて居ないがやがてはすつかりが會得さるゝ日が來る。新聞紙がある政治家の虛言は既に世界を通じて叫んで居る恐ろしい聲を常に抑へ消す事は出來ぬ。歐羅巴は死につゝあるこれは戰が歐州を殺したのだ。

人々はやつと分つた。而し若も彼等が滅ぶまいとするならば彼等は相結び各々の誇と貪慾とを棄てゝ平和の裁判所の判決に從ふであらう。」

× × × × × ×

皆さんは我々の受けた恐しい鞭、今現に受けつゝあるあの大な敎訓、世界幾多同胞の苦しみを、眞に切實にお感じになりますか知らん。彼の人々の苦しみがもつと切實に自分のものと感じられるやうに、そして其苦しみの中から、饑ゑ渴く如く義を慕はせ給へと私は祈り度い、華府會議は終へ四國協商、軍備縮少も成つた。しかしゆるぎない平和の基礎がそこに定められたか否と力なく答へなければなりません。滅び度くないならばお互が人類的愛に目醒め其

愛に歩み出さねばなりません。愛の根源に觸れ其火を受ける唯一の道は祈の外ありません。

○

行衛を失ふた魂は
廣い世界にどんな樂しみも
どんなさゝやきもうつろで
何とも言へぬ淋しさに
聲もたてられないすゝり泣をする。

おいで魂よ
涙の眼のまゝ、其のまゝで
お前の涙をぬぐつてくれる人が
どんなにお前を待つて居るだらう
喜と生命とをお前のものとする爲に

○

小さなコゼリ合ひに
貴い心を傷けないでおいで
でも傷ついたならば直ぐに
大自然の懷に飛込むがよい
優しく一切はいやされる

語らないでおいで傷を深くして
廣げる丈だもの
慈母の胸に飛込むがよい
淸い高い大な力ある手が
小さな、なやみを忘れさせてくれる。

○

靈よ!!お前の中に
貴い人の生命が流がれて居るか
自らで自分の心を見つめるがよい
高慢つたり憎んだり恨んだりするならば
そこにはまだあの方の生命は流れてない
あんなにお前を愛して下さる
そうだ純粹に無條件に
あの淸純の愛がお前に通したら

そして其人に走るなら
あの方の生命はお前の中に流れやう

自分の生命を投出して愛して下さる方
お前は自分の生命を投出しても惜しくあるまい
否え投出さずには居られまい
投出すがよい凡てを捨てるがよい
永遠の生命が歸つて來る。

一自分は生活そのものが祈である。私の忠實に仕事をなしてることは即ち祈である。故に別に祈る必要はないといふ人がある。しかし考へなければならぬ事は我々はたゞ働く爲に此世にあるのでなく生きる爲である事である。生命は、肉體・精神、智識の達し得る最高に生活することが目的であつて　仕事は唯其方法に過ぎない。仕事をもつて生活の全部となす時には狹隘なものとなり更に仕事丈に沒頭することは、早晩我々を疲勞させて我々の働きつゝあることは一體價値のある事だらうかと思はせらるゝに至る、實際働と祈とは相一致するもので是は人性の二大要求である、是等は相反するものでなく、互に相補ふものである。

バタソン

少女之欄

島の乙女

村岡花子譯

四

「ジムに爲せても可い事なんですが、あなたが媒鳥を連れ出すのがお厭でなかつたら、あなたにして頂きませうかね。」

「遣りますとも、遣りますとも。どん〳〵言附けて下さい。」マーチは岸へ二三間入り込んだ所から淺瀨の方へつき出て居る媒鳥の棚の方へ歩み寄つた。其處は鵞鳥と白鳥と鴨とがみんな別々に仕切つて入れてあつた。ジムは此の時既に鴨の棚の中へ入つて居て、頻に鴨を狩り集めては垣の上からマーチに一羽づゝ手渡し〳〵した。マーチはそれをモレイに渡すとモレイは兩脇に一羽づゝ抱へては水際に繋いである小舟の中に仕切られた媒鳥の檻にそれを入れた。

鵞鳥の方は中々ジムの手では捕へ切れなかつた。身體が滑かで大きな上に、一つ其の羽根でたゝかれたら頑丈な男の握り拳で打たれた位には應へるといふ程力があるのだから、ジムはそれを追ひ集めるのでグタ〳〵に疲れて仕舞つた。

とう〳〵モレイとマーチの援兵を頼んでやうやうの事で鵞鳥の始末が附いた。

次ぎは白鳥の番だつた――黑い嘴と足を持つた眞白な鳥を捕へるのでマーチとモレイはせい〳〵呼吸を彈ませながらも、鳥と相撲を取らないばつかりの自分達の樣子を可笑しがつて笑ひ興じた。

やうやくの事で囮に使ふ鳥はすつかり積み込まれた。食糧も彈丸も鐵砲もすつかり入つたので、マーチとモレイは船の中に乘り込んだ、そして船は眞直ぐに太陽の上つて來る方向に向つて進み出した。

大きな鷗が船の舳をかすめて飛んで行つた。野鴨が長く列を作つて飛んで行くのが丁度雲を劃いたやうに見えた列は後に前に數が殖えて來た。そしてそれがもつれもつれになつて、東の方の遠い大西洋の大海へ走つて行つて仕舞つた。

モレイはぼんやりと其の跡を見送りながら、

「あゝ〳〵今日は駒鳥日和らしうございますよ。あつちの沖にも一杯鵞鳥が遊んでるぢやありませんか。駄目ですわ、此の頃に珍らしい温い日和だもんで鳥はみんな遠くの沖の方へ浮れ出しちまつたんですわ駒鳥日和ですよ。」

「然うですかなあ。成程此の邊は一向獲物は有りさ

うにも見えませんね。ほんとに駒鳥日和と定つたら如何するんです？」

「如何も斯うも仕方がありませんわ。居眠りでもして居るより他は無いでせうね」とモレイは遊び友達と冗談を言ひ合つて居る時のやうな心易げな調子で斯う言ひ放つて面白さうに笑つた。

「そんな事を言つて居る間にも遙かの沖合からは鴨が一團づゝになつては水から飛び上つてクルクルクルと空をかけめぐつた、やがてそれは皆ユラリユラリと煙の紐のやうに長く連つてなほも遠くへ去つて仕舞つた。

　モレイは岸の方を向いて其處に立つて居る弟に別れを告げた。ジムは帽子を振り〳〵家の方へ向いて行つた。

　やがてフォーム島の遊獵地が見えて來た。嶋へ着くとモレイとマーチは彈丸や銃や食物を船から嶋の小屋へ運び出した。モレイは船の中から木製の鳥を澤山に出して水に浮せた。水の中に投げ出された木製の鳥は眞實のものと間違へられる程に巧に作られてあつた。次ぎにはほんたうの媒鳥の番だつた。マーチとモレイは各々兩脇に一羽づゝかい込んで、氷のやうな水の中を指先で探り探り、下の針金をさぐり當てた、そしてバタバタ狂氣のやうに羽ばたきをして居る鴨や白鳥の足の端に附いて居る輪を針金に引掛けて置いて、それを一齊に手から放して水に入れた。繫がれた鳥は最初の中は水をたゝくやら引張り合ふやら大騒ぎをしたが、とう〳〵落附いて、泳いで行かれる丈けの距離を靜かに泳ぎ廻つた。

　マーチは無暗矢鱈に騷ぎ立つ鵞鳥の雄をかゝへて弱り切つて居た。それを見たモレイは。

「あゝ、それは一對になつてるんですの。其處へそれ丈け置いて御覧なさいまいし。」と敎へた。

　マーチはダドレイ小父さんと呼ばれて居る其の雄の鵞鳥を其處へ放した、案の定、ダドレイ小父さんは怒つて、夢中に怒鳴り立てゝ妻君を呼んだ。ずつと離れた方から其の雌鵞鳥が夫の聲を聞き附

けてわれも負けず劣らずの大聲でわめき始めた。それに續いて鵞鳥といふ鵞鳥、鴨といふ鴨はみんな騒ぎ出した、白鳥丈けは聲を出さずに頻に自分共の足の輪を氣にしてそれを噛むので忙しかつた。

「さあ」これからですよ。これに釣り込まれて寄つて來れば來るんですからね。何ぼ何でも未だ少しは沖へ出ない鴨がありさうなものですわ。」とモレイは言つてマーチを小屋の方へ案内した。船は見えないやうに蘆の間へ引き込んで置いた。

小屋の中からヂッと空の工合を眺めて待つて居たが、一向に獲物らしい物は近附いて來なかつた。水の面には自分達の媒鳥が動いて居る丈けで他には何もなかつた。空は靜かに晴れ渡つて居た。

沖合遙かなかなたには何十羽とも知れぬ野鴨が氣樂さうに餌をあさつて居た向ふの海には白鳥が五六羽、丁度雪片が水面に浮いて居るやうな樣子に漂つて居た。

長い長い間モレイとマーチは蘆を後にして小屋の中で空と水を見詰めて座つて居た。折々一羽か二羽位鴨が飛んで來たが、マーチの狙はいつも外れて取りにがしてばかり居た。

「駒鳥日和ですよ、駒鳥日和ですよ。」とモレイは溜息をついた。然し其の後ではいつもマーチと顔を見合せてはほゝゑんだ。灰色だと思つて居たモレイの眼は今は鮮かな水色になつてマーチに見えた。早朝からの活動に疲れてモレイは壁に倚つた儘でウッラウッラと眠つた。そして其の眠から醒めた時、其の水色の眼と薄桃色の頬には何とも言へぬ美しいうるほひが出て來た。其のうるんだやうな眼と美しい頬の色の爲めに、やがて自分の心が苦しめられねばならない事は其の時には未だマーチは夢にも思ひ附かなかつた。唯彼はモレイを見て快く感じた、そして前の晩には氣が附かなかつたが實際モレイは美人と言はれるべき程の美しさを持つた娘であるのに驚いた。

「駒鳥日和つて、面白い言葉ですね。」とマーチは言

つた。「全く小春日和を表すには適切な言ひ方ぢやありませんか。冬の間にヒヨツコリ春のやうな日が來るつて言ふんで小春日和なんて言ふんだらうけれどそれより駒鳥日和つて言つた方がずつと面白いですね。此の邊丈けの言葉ですか？」

「然うですね、確かこんな事を言ふのは此の邊丈けだらうと思ひますよ。此の濱邊一帶に駒鳥日和の唄があるんですの。何だか下らない唄ですけれど……」

「どんな唄なんです？」

「さあ、覺えて居るかしら？」と一寸ためらひ乍らそれでも考へて居るらしかつたが、きまり惡るさが交つて居さうな笑と一緒に言葉をつゞけた。

「ほんとに下らない唄なんですの。」

「どうぞ歌つて下さい。」

「エヽ、御聞かせしてもいゝんですが——つまらない唄なんですよ。」と言つてから、半分は笑聲の交つた低い奇麗な聲で歌ひ出した。

「海はなめらか空靜か、
白帆をなぶる風もなし、
船はゆるりと碇を下す、
飛ぶは鷗か雪びらか
ふわりふわりと羽毛のやう——
空にうなるは鷹の聲
吐息するのは男の心——
それがほんとの駒鳥日和。
空に舞ふのは勇ましい鷹よ、
下に嘆くはをとめの心。
いつか結ばる二人の心、
これがほんとの駒鳥日和。」

モレイはずつと海の上に眼を据ゑて居た。

「こんな唄なんですの。馬鹿らしい話でせう？」

とモレイは靜かにこんな事を言つた。（つゞく）

本部宛に年賀狀を下さいました御方の御芳名を左に記し略儀ながら紙上にて御禮申上げます

加茂　令子氏　小熊富美子氏　田中美惠子氏　渡部　君代氏
齋藤　惣一氏　神戸女學院青年會　瀧野　市郎氏　普賢寺篤三郎氏
原田ことち氏　松宮　彌平氏　井深梶之助氏　同　しん氏
今村　正一氏　藤本周次郎氏　二宮わか氏　梅光女學院青年會
小田　正吾氏　秋元　俊子氏　青山　ひで氏　江口　郁子氏
二階堂眞壽氏　宮崎かつ子氏　鹽野　賓子氏　家庭週報編輯部
横尾　恒雄氏

本部會計報告（御寄附金）

金參拾圓也　最上　夫人
金貳圓也　吉田さう子氏
金貳拾圓也　廣島女學校青年會
金參圓也　宮崎かつ子氏
金拾圓也　多木有機子氏
金壹圓也（維持費（一口）十二月分）　三輪田亘子氏
金貳拾五圓也（同上（廿五口）十二月分）　河井道子氏
金拾貳圓也（同上一口）　大江壽美子氏
金壹圓也（同上一口一月分）　岡崎小文氏
金五圓也（同上五口一月分）　松岡鎭枝氏
金參圓也（同上一口十、十一、十二月分）　松本とよ子氏
金貳圓也（同上一、二ヶ月分）　佐藤榮子氏
金拾貳圓也（同上一口）　江崎靜子氏
金拾圓也（本部負擔金）　横濱女子青年會
金百圓也（同上）　東京女子青年會
金五圓也（同上）　共立女學校青年會
金拾五圓也（同上）　女子英學塾青年會
金拾圓也（同上）　梅光女學校青年會
金拾壹圓貳拾八錢也（同上）　弘前女學校青年會
金拾圓也（渡邊幹事に謝禮として）　女子英學塾青年會
金拾五圓也（修養會敷地のため）　同　上
金四圓也（幹事養成所のため）　門田耕成氏
金貳拾五圓也（本部建築費として）　ウヰルミナ女學校青年會

萬國基督教女子青年會本部負擔金

金五拾六圓也、東京女子青年會、第二回分　金貳圓八拾錢也、聖友女學校　金九圓也、女子英學塾　金拾圓七拾錢也、尚絅女學校青年會　金貳拾壹圓也宮城女學校青年會

クリスマス献金

金貳拾貳圓也（エルサレムのため）横濱女子青年會幹事一同
金貳拾八圓也（同　上）東京女子青年會幹事一同
金五拾壹圓也　本部幹事一同

合計　金壹百壹圓也

中歐學生救濟御寄附金

金四拾七圓九拾五錢也　東京女子青年會クリスマス祝賀會
献金金四拾圓也　ツキルミナ女學校青年會
金參拾圓也　梅光女學校青年會

小計百拾七圓九拾五錢也

累計參千九百拾五圓拾九錢

横濱女子青年會報告

新しき年に對する願と望みとをもつて、去る一月九日より一般事業を開始せり、會館の全部及び寄宿舍に至るまで休中全き修繕を行ひ、塗りたての壁、新型のランプ、新しき額の數々、ミセス、ペイン考案になれる白とブルーの窓かけ、ミセス、メンデルソンよりいたゞきし窓掛など、來館者をして殊更なる喜びをあたへぬ。

(一)教育部　去る十一日午後四時より始業式を行ふ、事業は前と變化なきも昨年中西洋料理の組を御教授下されしミセス、チエンバレーンに代りミセス、グリーン新年より御教授下さる事となれり、同夫人は英國第一流の家政學校御出身にて、さきに御教鞭をとられし御經驗ある方、同夫人を得しを喜ぶ。

今年より新たる挿花科の計畫あり當會委員の御一人なる山口たつ子夫人鎌倉より御出張御教授下さる豫定なり。

(二)移民部　講習と買物の手傳などより全く親しくなりし人々の立出を波止塲に見送り幾度か同じ事をくり返しつゝもいつも新らしき希望を彼等にしらせ、宿屋の人々汽船會社の人々、さては縣廳の方々の全き了解を得ておしみなく働き得るを謝す。

(三)クラブ「ルイズクラグ」にては新年に於ける計畫相談のため去る一月十七日午後一時半より役員會を開く、來る二十三日午後一時半より宗教研究の後仕事會の豫定。

「夫人クラブ」一月十九日晝食をともにし後宮中御膳係のお方御來會下されかしこきあたりの御食事の事ども御講談の筈。

「支那女學生クラブ」一月十八日新年第一回例會を開く筈。

昨暮より支那に御旅中なりしミス、アレン一月十七日御歸濱多くの御土産話おきゝいたすよろこび、同氏の御歸濱は我等のよろこびなり。

神戸女子青年會報告

報告が後れまして昨年の話をする事はをかしな氣がしますが先づ第一に新らしい試であつた十二月十九日市民クリスマスの事を御報告致します。

當日は幸に寒さは特別にきびしうございましたが快晴、ミスター、スミスの指揮の下に善隣クラブ諸氏によつて三間のクリマスマス、ツリーは飾られました、六十の電燈とデコレーションで湊川公園の一角は輝きました、午後六時といふにコルネットの吹奏に連れて二千の會衆が集り委員によりて配布されたクリスマスカードに印刷した讃美歌を唱ひ、賀川豊彦先生のクリスマスに就ての説教を聞きました。

未だクリスマスが何の意味があるか何故祝ふか一向わからなかつた人々が先生の御言葉によつて本當に心より主の御降誕を祝す事が出來ました。

七時よりは同公園勸業館内にてクリスマスパヂェントが催されました公園に集つた會衆はなだれを打つて同館内に流れ込みまたゝく間に堂に滿ち階段も廊下も人が重なり合ふ樣で然し誠に靜肅にクリスマスを祝ふパヂエントは行はれました。

これらの催は總て男子青年會と共同で致したといふ事も御注意願ひ度い事です、二回に渉つて催したパヂエントの献金參百四十圓十九錢五厘は井深掘之助先生の手を經て露國飢饉救濟の爲に寄附致しました本會にて、最も欠陷に感じて居ました、クラブの仕事はミス、チャペルをガールスウォークの幹事としてミスアームストロングの來神により勇氣つけられ毎月一つつゞクラブを組織して行く考へで努力して居り今月は若い看護婦のクラブを作る準備をして居ります。來る廿日にはヴオリス夫人を招き會員の集會を開く筈です。

大阪基督教女子青年會報告

○教育部。既報の通り十二月十七日レコード音樂會を會館に開きました。之は同部にオルガンを購入す

る資金を得る爲であります。幸所狹き迄の入場者を得まして最初の試みとしてはまづ成功の方でした。收入六十八圓五十錢、支出拾圓五十錢。純益五十八圓を得ました。二月中旬再び開く豫定です。クリスマス祝會は十二月二十一日終業式をかねて開きました。百人餘の來會者あり之も盛會であつた事を喜んで居ります。

○商工部　未具體的には何等の働も始めては居りませんが、近き將來を期して居ります。十一月下旬ミセスウッド來阪せられ淺井幹事と共に當市內及び附近の七箇の工場を來觀せられました。之等の來觀から得た材料に基いて將來の働の方針を定むる事になると思ひます。

○雜報　(イ)ミスレーガンの奈良女高師學生の聖書の組は毎回三十人餘の來會者あり有望です。此中から眞の信仰を抱いて女子敎育に從事さるゝ方々の多く起るやう望んで止みません。(ロ)佐藤いよ子氏辭職の後缺員になつて居りました事務幹事の椅子は鈴本鍈子氏に依つて占めらるゝ事となりました。(ハ)一月中本部から河井スコット兩幹事の來援を得ました事は一同の大なる喜びでした。(ニ)一月から本會館內の一室を朝鮮人金氏夫妻の働の爲に提供して同氏の働を助ける事になりました。同氏は京都に本部を置く朝鮮人勞働共濟會の會長です。此度大阪に働く四千人餘の朝鮮婦人間に働を始めらるゝ事となりました。私共は同氏夫妻の健氣なる志を出來るだけ援助いたしましたく思つて居ります。

京都女子靑年會報告

當會に於けるクリスマス祝會は左の如く三回に分ちて催したり、二十二日午後七時より朝鮮婦人等を招きてクリスマス親睦會を開催す山縣夫人の主の御降誕につきて御話あり金扑春夫人之を通譯す、各自袋に入りたる贈物を受け時のうつるも忘れて共に讚美歌を歌ひ喜び興じつゝ一夜を過したり、三角クラブ會員(郵便局通信員)は其夜茶菓其他に接待の勞を

とりたり、來集者四十名二十四日、午後四時より會員一同のための祝會を開く來會者四十五人、番者のクリスマスキャロル、ミススタインメッツの獨唱に續きて日本語にてクリスマスパアジエントを演ず、大阪より西野貞子氏來京されて有益なる講演をされたり、二十六日はクラブ會員の主催にて貧民兒童三十五六人を會館に招くクリスマスの話の後一時間程面白き遊戯をさせ、みかん菓子等の外各々に玩具文房具などをあたへてかへらせたり。

十二月二十七日より一月八日まで閉館し九日より再び各組及クラブを開始したり、以上

東京女子大學校靑年會報告

一、先學期中集會報告（集會は毎週午後三時より）

九月十四日　親睦會（夏期修養會報告あり）

九月廿一日　例會

九月卅日（金）講演會　賀川豐彦氏

（信仰と望と愛）

拾月　五日　講演會　二階堂眞壽氏（神と人）

拾月十二日　例會

拾月十九日　講演會、二階堂眞壽氏

（メーテルリンク宗教觀）

拾月廿六日　病院訪問（泉橋慈惠病院訪問）

拾一月二日　遠足會（大山公園へ）

拾一月九日　祈禱會、（ワシントン會議の爲）

拾一月十六日　子供招待日

拾一月卅日　例會

拾二月七日　お仕事會

拾二月十四日　講演會、石幡五郎先生、

（コーエン著書紹介）

拾二月廿三日　午後四時よりクリスマス。

クリスマス禮拜（四時）

齋藤勇先生のお話

祝賀會（六時半より）

竹友藻風先生　詩朗吟

奏樂　合唱　お伽噺　黙劇　童話劇

禮拜と祝賀會との間に摸擬店及バザー

其他毎週土曜日早天祈禱會を致しました。

日曜日午後六時から聖書研究會

一　ミスバイダー御指導の下にフォスディク氏「信仰の意義」

顧問ミスバイダーの御不幸を痛み御歸朝を待ちます。本部の御發展を祈り全宗教團體に健全さを祈ります。

東洋英和女學校女子青年會報告

昨年御殿場に開かれた修養會は當青年會に一大機轉を與へました。出席された數名の役員會員は天父の豊な御惠と多數の姉妹のお助けによつて非常に得る所があつて九月歸校されました。そして先づ第一回の役員會に於て新らしい計畫が企てられました。それはキリストの四方面の發達にならつて當會も體育智育宗教社會奉仕の四部を組織するので御座いました。これ等の役員には今迄の役員に數名の委員を選んで加へたにすぎません。各部に一人宛の西洋教師を加へ(各部平均八九名)各一心に働いて居ります。毎週水曜の集會は四部が代り代りに主催する事になり、體育部の時には體に關する有益なお話や又實地に體操ダンスをしたり又新らしいゲーム等を教へて下さいます。智育部では有名な西洋のお話や有益なる書籍の紹介、當てもの、其他私共の智識を正しい方面に進めるために努力してゐます。近くは人を選んで時事問題(例へばワシントン會議)について御講話を願ふつもりで御座いますとか。又この部では去る十一月から毎月一回「梨の花」といふ小さい雜誌を出し、廣く會員の投書を歡迎して居ります。會員の自作の詩や歌や作文感想又論文等(日本語英語)出來るだけ讀者の精神的向上を計つて居ります。又宗教部では、特に私共の貴い靈一つでも多く神の手に歸る樣に種々の方法によつて働かれ居ります。毎週一回各組に通學生寄宿生有志の祈會を始められました

又社會奉仕部では奉仕の精神を養ふために講話をお願したり。「又誕生日會歡迎會等を主として司り又日曜學校をも出來るだけお助けして居ります。其他何時でも機會さへあれば奉仕し樣と努力して居りますこの部の一部分たる仕事部及び販賣部ではお金を儲けて出來るだけ會を金持にし充分なる働の資本を一心に造つて居ります。そのために昨年のクリスマスには合計二百五十圓を九ヶ所に寄附する事が出來ました。かうして私共の青年會は神の惠の內にだん〳〵外に向つて發達し樣としてゐます同時に私共は一人〳〵が充實した會員になつて內に向つても同樣の發達をしたいと切望して居ります、現在の會員は合計九十四名で御座います。

横濱英和女學校青年會報告

我校の青年會も漸次發展を見ることが出來まして一同大いに感謝いたしております。

近頃は每週の集會には生徒の大部分擧つて出席して熱心に先生講師のお話にも耳を傾けて下さいまして滿足な面持を以て會に接して下さいますから從つて意氣込と言ふものが生じまして、役員委員等も比較的忠實に働くことが出來るので御座ます。

昨年の末即二學期中は度々多くの結構なよい講師をお招きして、御話を願ひましたので、感動された方々が大勢御座ゐまして、僅か三四ヶ月の間に、二十四五人の多きに上る信者を出すことが出來たのは、眞に喜ぶべき事實だと存じます。

他に青年會の事業として文房具及パンの販賣がございます、是は例年の通り働を續けてをりますが、販賣部の方々がよく活動して下さるので利益も相當に得られますし、又寄宿の方でも心ある人々が、以前の如く、他の方々の洗濯物等を引受けて下さいますので僅ながらも、それ等の手に依つて得た金額を慈善事業の方面に投じたり、或は他の有益なる方面に用ひて居ります、この樣に我青年會の事業の發展の狀況を御報告することの出來ますことの幸福を喜ぶ次第で御座ゐます。尙年の改まると同時に益々この事業の發展の步を進め、以上の好成績を見ることの出來ます樣に衷心から希て居ります。

遺愛女學校女子青年會報告

神の恵の御手に抱かれて我が青年會も益々繁榮を增し、いと弱き小さき者なれども更に强き信仰を加へられ新しき努力の中に主は我等を用ひ給ふを深く感謝す。扨近頃本會の働きとして新に始められしは通學生のため辨當代用の食パンを買る事にて彼等に大いなる便宜を與へ好果を納めつゝあり。毎月三四回宛開催せらるゝ例會及び各部の會集には數多の出席者ありて愛のしたゝりを待ち望める彼等に多くの恵の露注がれ心に宿せし露はいやまさりて泉となりいたるところに流れ出てゝ乾ける地を潤す感あり。

去んぬる十二月には昨春の大火に類燒せし我が函館メソヂスト敎會堂建築資金に寄附せん爲バザーを開催せり。會員一同いや勵みて忙はしき中に尙あれやこれやと會のために働く其の嬉しさ我等の手によりて出來上りたる製作品は編物袋物布巾繪葉書等にしていづれも眞心の籠れる者と思へば價値ある樣に尊く思えぬ。かかる品々取並べて開店せしに山なす客來りて立錐の餘地なく忽ちにして一つ殘らず賣り盡せり。番頭の忙はしさ、ホット息つく暇もなかりき。此の一方には喫茶店を設けて來客をもてなしぬ。買ふ者も賣る者も共に私慾を去つてする働に加はりし恵の現れ偉大にして會員一同喜べり。北國の寒いと冷く地上には幾尺も雪降り積りて我等ストーブ圍みてなほ寒き候に破れ家に食なく衣服なく震ひ戰ける同胞此附近にもあるを知り我等同情に堪えずクリスマスにおける本校全體の獻金を用ひ米薪炭魚衣服金子等携へて訪せしに床に額づきてぞ喜びける、最も憐れなるは八十歳なる姥が十一歳なる孫娘と共に何らの收入もなく他人よりの扶助を仰ぎて露命を繫ぎ居る者なり其の家の壁はぬけてなきも同樣にて唯屋根あるのみ、風雪自由自在に侵入し屋内恰も外の如くよくも斯る家に住むことの出來るものよと驚かされぬ。嵐の夜などは吹きすさむ雪顏にかかりて眠り半に破られ二人犇と抱合ひて泣きつゝ明くるを待ちちしこともありけるとかや。

我ら見聞きして涙にむせび己が境遇を顧みて感謝の外なかりき。

來月初旬には年會ありて役員改選一ヶ年間の報告などもあることなれば目下準備中なり。

（大正十一、一、一四）

新刊紹介

平和の勇士(村岸榮子著)

少年を主として武力に依らざる平和を高調宣傳するのが本書の目的である内容は一、眞の愛國者　二、來るべき新世界　四、ウイスカンシンの源を下つて　五、砂嵐との戰　六、水を征服した力　七、勞働の敵と戰ふ　八、海底電線の戰　九、虎と蠶　十、キャシミャの包圍攻擊　十一、石投げ　十二、流血を見ぬ路　十三、勇敢なる平和の調停者　十四、漁夫の冐險との危險　十五、燈臺を建てるまで　十六、キャサリンウイルキンソン　十七、移民の友　十八、潔き敗北者　十九、戰爭を憎惡し人道を愛せ　廿、近づける世界平和　廿一、赤十字　廿二、身も魂も救ふ勇士ペネル宣敎師以上

定價　壹圓九拾錢

京橋區築地明石町角八

發行所　基督敎興文協會

本部便

一月は本部では淋しい日が續きましたミススコットは大阪に出かけられ支那に行かれた一行は留守河井先生には思ひもかけぬ御不幸があり櫛田氏は昨年末より御病氣渡邊氏は河井先生御慰問の爲御旅行まるで火の消えたやうな事務所でした而し細谷氏と勝部氏とが向合つての大活動ミスクローヤーのタイプライドのパチ々々はいつも威勢よく水車の廻轉は細いなりにも續いて來ましたそう言ふ私は誰も居ない二階を通つて三階にたつた一人つくねんとする暇もなく二月の娘が惠まれたものであるやうにと、祈りながら仕事をして居ましたが二三日前から急に事務室に四人二階に二人三階が五人それにアームストロング氏迄お歸りになり全幹事が揃ひまして活氣が燃えて來ました。

本部では今春の平和博の時何か奉仕したいと言ふので目下ある計畫をいたして居ますこれが爲には基金がなか／＼入ります、よき業の爲に資金が與へられた事を切望して居ります。

（K・O）

幹事短期養成科生徒募集

日本基督教女子青年會は今や東京、横濱、大阪、神戶、京都に市の女子青年會を含み廿八の學生部を聯合するに至れり。從ひて適當なる働人を多く要するを以て幹事の短期養成科を開始せんとす。志望者は願書に履歷書を添へ至急申込むべし。

學　期　四月上旬より八月上旬迄

資　格　一、專問學校卒業或は敎育、傳道に數ヶ年の經驗ある人若くは同等の學力又は經驗ある者

二、福音主義基督敎會の信者たるべきこと、(所屬の敎會と現在の牧師の姓名とを履歷書に記入すべし)

三、健康者にして人と協力の可能者たるべきこと

四、年齡廿才以上四十才迄

學　費　場合に應じて貸與の便宜あり

申込期日　二月廿八日〆切

問合せは三錢切手封入にて事務所に宛られたし

事　務　所

東京神田區錦町一ノ十六番地

日本基督敎女子青年會本部

委員長　井　深　花　子

幹　事　河　井　道　子

消息

□河井道子氏御母堂　長らく御病氣の所遂ひに一月十日御永眠哀悼にたえず。

□河井道子氏　冬休後直に大阪に赴かれしが御母堂御永眠の爲御郷里三重縣に歸られ葬儀を終つて一月十九日歸京されたり。

□渡邊百合子氏　冬休を御郷里三島に過され九日上京されし氏は河井氏御母堂葬儀の爲三重に赴かれ一月十九日歸京さる

□ミスレオナスコット、ミスアーレン、ミスパードサル及ミスアームストロングの四人は去月十七日發にて渡支され北京、天津、南京上海の女子青年會及學校を視察し一月十七日無事歸京さる。一行の最も注目を惹きしは同地女子青年會の發起によりて成りし女子體育教師養成所なりきと。

□鈴木鉞子氏　京都青年會にありし氏は一月より大阪青年會へ御轉任

□ミスフエーリス　東京女子青年會幹事の同氏は今回ペトレッツ氏と婚約を結ばれたり。猶同氏の母君は米國よりクリスマス前に來朝され目下東京に滯在中

□田中爲子氏　東京青年會の旅行者の友本年一月かぎり中止となりたると共に同部主事たりし氏は辭職さる

□平岩順子氏　先に東京青年會員たりし氏は去年十一月御永眠追善寄附として家族の方より二十圓クリスマスの時送られたり。

□矢島楫子氏　渡米中なりし氏は守屋東氏と共に一月二十日歸朝されたり

□モット博士は來る二月廿日桑港發支那に渡航の由

□ラトガース博士同盟會計員なるが桑港にてモット博士と會合同船さるゝ筈。氏は同盟會の支那の仕事の準備の爲昨年十一月二十六日より十二月八日迄の間ウヰンナ、グラッズ、ルーベン、プラーグ及ベルリンを歴訪し同盟運動及救濟事業に關し親しく新しい調査をさる。米國に來る前にロンドンに數日を費し且つ桑港への途中米國の幾多の大學訪問の豫定なりとぞ

□支那にて開かれる萬國學生同盟會は千九百二十二年四月四日より九日迄と定めらる。多分北京チンハウ大學に於て開かるゝならん。支那の男、女青年會の學生指導者は先に今回の會の要旨を世界改造のキリストとし曰く吾々キリスト教徒の世界同胞の普通の仕事は世界のキリスト教的改造にあれば東西全世界のキリスト化を勵め講演も討議も此意味にてされたしと聲明す。

備考

一御注文は一切前金に願ひます
一御送金は振替でお拂込み下さる事が便利で安全です。但手數料一錢をお加へ下さい。郵便切手代用は一割增
振替東京二三七二三番

定價郵税共

	内地	海外
一部	金貳拾錢	金貳拾貳錢
一年前金	貳圓	金貳圓參拾錢

廣告料

一行	金五拾錢
四分一頁	金五圓
半頁	九圓
全頁	金拾五圓

年極又は回數により割引有

大正十一年一月廿八日印刷納本
大正十一年二月一日發行

發行兼編輯人　神田區錦町一丁目十六番地　河井道子
印刷人　東京市芝區櫻田和泉町七番地　前川吉治郎
印刷所　右同所　三成舍

發行所　神田區錦町一丁目十六番地　日本基督教女子青年會
電話神田三六五二番
振替口座東京二三七二三番

teaching, as a numcer of former pupils and some new ones live in this vicinity. An "At Home" was held in the month before the holidays, when a number of neighboring friends were welcomed who very much enjoyed seeing how a Japanese house can be adapted to foreign use. A dinner party was also held for a few special guests, one of whom had become much more deeply interested in the Association through the memorable talk given by Miss Cratty on her visit here in November. Much similar entertaining is planned for the coming season to deepen international friendships and extend knowledge of the Association.

We are very happy that two girls who became Christians at the Gotemba summer conference have been baptized, one in an Episcopal, the other in a Congregational church. The older one, a teacher, is a member of our reorganized Industrial Committee and is a great help in the Association in many ways. The younger girl, still in a private High School, can not come often to the Association now but we hope for her Christian leadersiip in the future.

The Industrisal Committee is taking on new life and strength just now from the presence of Mrs. Wood, our special Industrial Worker. She is in Osaka for a full two months or more, visiting factories and meetiing leaders in industry, with Asai San as interpreter, laying the foundations for industrial. work for the future.

Miss Armstrong's valuable course of training for leaders of girls' clubs, especially the Girl Reserves, was concluded the last of December. Eight girls besides two of the secretaries were in this course and we hope to have some worthwhile work among younger girls as the result.

Miss Ragan's Bible class at Nara is growing fast. Beginning with some 20 girls, the number has now grown to 40, studying the fundamentals of Christian belief. A few of the these Higher Normal School girls, not knowing of our Association, appealed to Mr. Miura of the Osaka Young Men's Christian Association for Bible teaching and the request was referred to us. As this school is one of the leading Normal schools in Japan, we have great hopes from this Bible class of its students.

We have greatly missed Sato San, our capable Business Secretary, who left us in November – to become Mrs. Tachibana. Her place was not filled till after the New Year, when we welcomed Miss Suzu Snzumoto who came to us from previous experience in the Yokohama and Kyoto Associations.

greatly need a proper home. This was done entirely on the thought and initiative of the president, but all the Board members added their synpathy with the long hours and weariness of the secretaries and agreed that they should not be asked to struggle with the housing problem in addition to their work.

The January meeting of the Suma Neighborhood club was held on the 13th, at which time, after the regular program, the Finance Chairman presented the finance needs of the Association, and received an enthusiastic response, the members volunteering to assume Suma's responsibility for the Association budget for 1922.

On the 20th Mrs. Wm. Merrill Vories and Mrs. Larsen, from Omi-Hachiman, are to speak to a combined Neighborhood Clubs meeting at the Building on "Community Spirit" as illustrated by the community activities connected with Omi Mission.

OSAKA

Christmas observances were much enjoyed in Osaka this season. The annual party for teachers of Association classes and others who have helped in various ways during the year was held December17, the supper this year being Japanese instead of foreign. with nearly 30 guests attending. Following the supper, a Victrola concert was given to raise money for an organ much needed by the Association. Besides the program of fine records there were special numbers representing the piano teaching of the Association and Miss Steinmetz' training in voice, also violin solos by Miss Yano, a skilled player. Over Yen 40.00 was raised from the sale of tickets, and a gift of Yen 25.00 toward the organ was made by Mrs. Nakamura who has been in one of the night school classes.

The Christmas Party for members, Dec. 21, proved a splendid rally of old friends and new, over 100 attending. This was combined with the Exhibition of the Educational Department with an entertaining program of recitations and dialogues. It was felt that this showed a real advance over the work of last June and it is surely a joy to see girls grow in understanding of their work and ability to present it to others. The young members of the Rainbow Club also gave some entertaining numbers. The second part of the program was a cantata arranged by Mrs. Yamamoto, our new chairman of the Educational Committee, presenting the Christmas story in music and dialogues. Miss Steinmetz had helped train the chorus for. this, and the beautiful singing and the scenes so simply presented deepened the Christmas spirit in the hearts of all.

The new residence of the secretaries – 1424 Yuenchi Tengachaya, Tennojimura, Osaka Fu–continues to be greatly enjoyed and very useful. The location is proving very convenient for much of the private

in the. Association.

KOBE

The Community Christmas was held as scheduled on December 19th and the Pageant repeated in the Y. M. C. A. Auditorium. The Tree was decorated by the Zenrin Club of Higher Commercial School students, under the direction of Prof. Roy Smith. Combined church choirs aided in the singing during the short service from 5 to 7 p.m. Kagawa San gave a short but powerful message about the meaning of Christ's Birthday, and 2000 Kobe people, most of whom had known nothing of Christmas hitherto except its commercial side, shared in the celebration, all receiving Christmas cards, and most of them attempting to join in the singing of "Joy to the World". The order and reverence were remarkable in that democratic crowd, all baring their heads during the prayer. Afterwards they thronged toward the Kagiokwan where the Pageant was given and, though many had to be turned away, and the crowd inside was very much packed, the attention and spirit were concentrated and reverent. After the Three Wise Men had led, and all the Pageanters had followed over the platform to the foot of the Cross to give their gifts, almost all the audience followed and thus shared in the giving, while the chorus sang "Gloria in Excelsis Deo", many, many times. The freewill offerings at the two performances, on the 19th and 22nd, plus 100 yen given by Kagawa San himself and other individual gifts, totaled Yen 340.00, which Miss Onomi took to Dr. Ibuka, to be sent by him to the Famine Relief in Russia. Famine conditions in Russia, as a result of two years of drought, are very bad over a region as far north and south, as from Hokkaido to Nagasaki, and one half as wide. The Friends Relief Mission is working there, but political prejudice all over the world is so strong against Russia that the possible gifts are greatly curtailed. Two million people must starve this winter if help is not adequate. Our gift was the first Dr. Ibuka had received for Russia.

The chance that our Community Christmas gave us in the Kobe Y. W. C. A. to cooperate with the Y. M. C. A. was a great privilege, and has inducted us into a mutual confidence and respect in working relations that has opened the door for much mutual helpfulness in the future.

Rev. and Mrs. Kim, the Korean pasfor and his wife from Kyoto, introduced by Miss Page, asked for permission to use the Y. W. C. A. in Kobe as Mrs. Kim's office in starting work for the 500 Korean women in Kobe. This permission was granted by the President, and ratified by the Board with enthusiasm.

At our January 9th Board meeting, the attendance was unusually large and prompt, and much business was transacted, the climax being when the president suggested and the Board gladly voted to pay the balance of the rent on a house for the Japanese secretaries, who

THE YOUNG WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KAI)

Volume 19 March 1922 Number 3.

NATIONAL

At its meeting on February 15th the National Committee, after many discouragements, decided to go ahead with definite plans for erecting a building and carrying on work at the Peace Exposition in Ueno Park, from March 10th to July 31st of this year. This will consist of a rest room, tea room where light refreshments will be served, a small library, and an information bureau. A large number of visitors are expected at the exposition and it is hoped that this work will spread the knowledge of the Association in Japan. There will be about one thousand girls and women employed on the grounds and plans are to serve them in all possible ways.

Mrs Sumi Oye, a member of the National Committee, and a teacher in the Tokyo Higher Normal School, will be chairman of the committee in charge of the work.

The party from the United States, traveling with Miss Taylor and Miss Edith Keely, stopped in Japan for a few days, on the way to China. Plans are being made for their visit in Japan on their return about the middle of April.

TOKYO

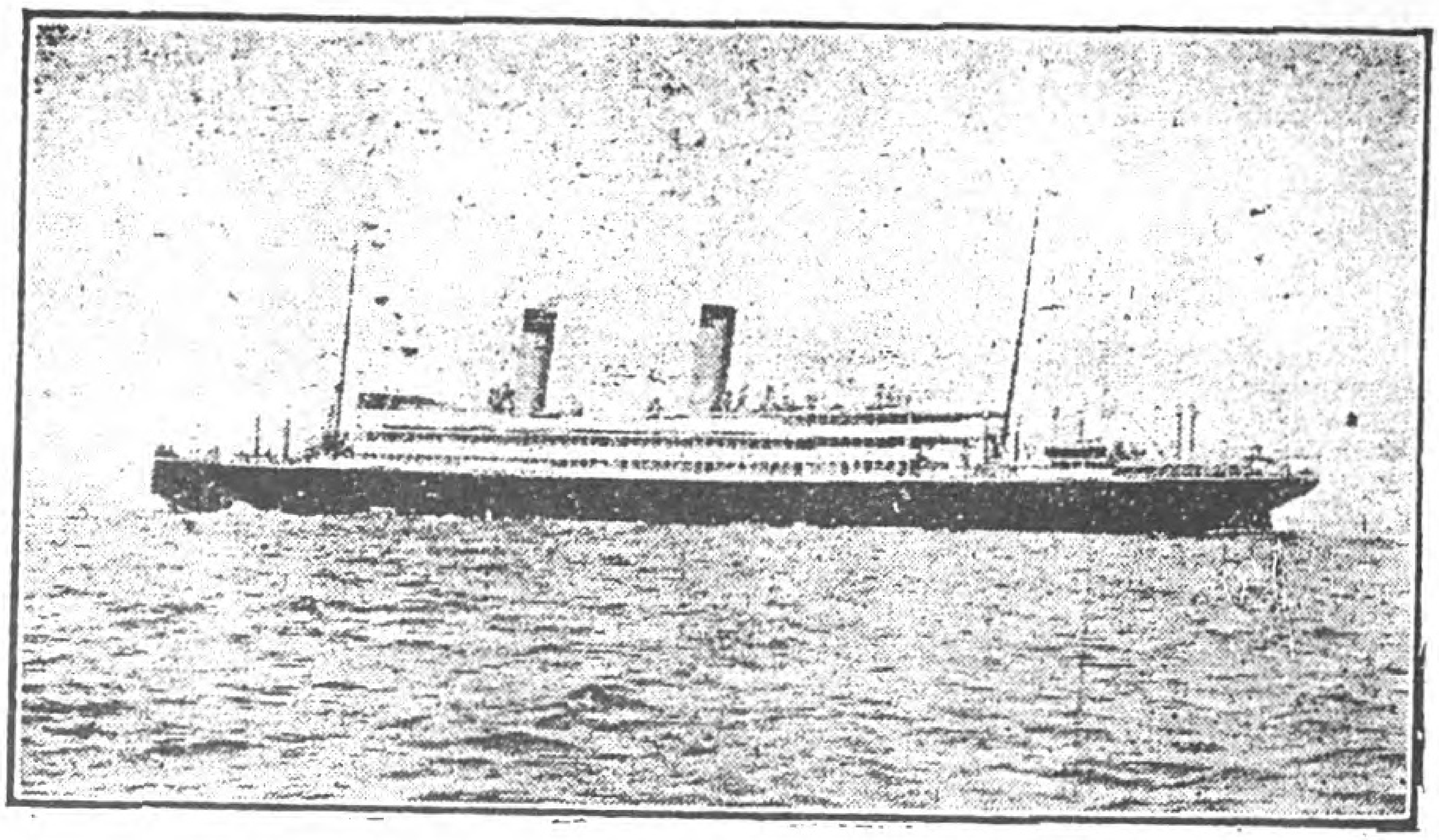
The Club Room on the fourth floor was formally opened on the twenty-third of January. Between seventy and eighty girls had supper in the living-room on the second floor, and after reports from the presidents as to club acitivities, they formed in line and to the tune of one of the Girl Reserve songs marched to the fourth floor, and assembled at the door of the Club Room. Mrs Arakawa, Chairman of the City Committee, read a Dedication Service, and presented the room to the girls in the name of the Tokyo Board. A member of the Yusen Club, the oldest in the Association, accepted on behalf of the girls. The members of the clubs had made pretty orange and brown curtains, bright rag rugs, and the whole room was most attractive and cosy.

This fall a thirty sen semi-foreign lunch has been served at noon to the staff and members of morning classes who might care to stay for the afternoon, and during the month of January 204 meals were served. As this experiment has been so successful, it was decided to serve an evening lunch as well for girls coming to evening classes, many of whom come directly from work, and often have no food till they get home late in the evening. A simple dish of hot rice with a vegetable or fish stew over it is served for fifteen sen, and in the first two weeks, 71 meals were served.

Miss Ferris is conducting an institute of twelve hours for teachers of gymnastics, and fifty five men and women have enrolled.

On the 11th of February, Kigensetsu, The Imperial Household

東洋汽船株式會社



本社　東京市麴町區永樂町一丁目一番地（電話丸ノ內一五三〇、一五三二番　一五三一、一五三三）

營業所　橫濱市山下町五番（電話本局四四〇〇、四四〇一　四四〇二、四四〇三番　四四〇四）

出張所　神戶市海岸通七番地。香港、キングス、ビルヂング。上海四川路ノース、チャイナ、インシュランス。ビルヂング。マニラ、チャコビルヂング。桑港、マーケット街六五二、マーチャンツ、ナショナル、バンク、ビルデング。紐育、ブロードウエイ、一一六五。ホノルル、アレキサンダー、ヤング、ビルヂング。

北米航路（桑港、布哇ホノルル、橫濱、神戶、長崎、上海、マニラ、及香港間）

本航路は太平洋航路中氣候温和、海上平穩なること第一にして船舶の巨大、設備の完全、待遇の懇切とに由り航海最も安全且つ愉快なり

大洋丸	排水量	二二、〇〇〇噸
天洋丸	同	二二、〇〇〇噸
春洋丸	同	二二、〇〇〇噸
コレヤ丸	同	二〇、〇〇〇噸
サイベリヤ丸	同	二〇、〇〇〇噸
波斯丸	同	九、〇〇〇噸

さいべりや丸波斯丸は往復共大連に寄港す大連航路の偉觀なり

南米航路（香港、門司、神戶、橫濱、布哇、桑港、羅府、墨國、巴奈馬、秘露及智利諸港間）

本航路は東洋南米唯一の定期航路なり

安洋丸	排水量	一八、七〇〇噸
銀洋丸	同	一六、〇〇〇噸
樂洋丸	同	一八、五〇〇噸
靜洋丸	同	一四、〇〇〇噸

各寄港地及各國樞要都市に代理店の設備あれば船室保留並に發着日割等は最寄に就て御問合せを乞ふ

女子青年界第拾九巻第貳號（毎月一回一日發行）
大正十一年一月廿八日印刷納本大正十一年二月一日發行明治卅七年五月七日第三種郵便物認可

一部定價二十錢